

2025年度

高大連携情報交換会 報告書

令和7年9月16日（火）

大阪私学会館

大阪私立高等学校進路指導研究会

令和7年度 高大連携情報交換会 報告書

目 次

1. 高大連携情報交換会について	 1
2. アンケート結果	 3
3. 分散会報告	 9
4. 高大連携情報交換会の歩みと今後の取り組み	 37
5. 高等学校側が大学・短大へ改善していただきたい点	 46

①

高大連携情報交換会（令和7年9月16日実施）について

○日時と内容：令和7年9月16日 14：30～17：00

第1部 全体会：14:30～15:20

- ・会長挨拶 会 長 山崎 哲嗣 （大阪女学院高等学校）
- ・来賓挨拶 大阪府教育庁私学課 参 事 中川ひろみ 様
- ・資料説明 事務局長 廣田 雅司 （大阪女学院高等学校）
- ・基調講演 「『選抜』から『エンゲージメント』へ
～入試の“壁”を越えた教育的連携の可能性～」
講師 進研アド大阪支社 支社長 新井 千晶 様

第2部 分散会：15:30～17:00

- ・分散会内容
高等学校のアンケート、大学・短期大学様のアンケートに基づき、基調講演を参考にしながら、それぞれの課題を知り、共に協力しての解決について話し合います。

○会場 大阪私学会館

○参加状況 《大学・短期大学》・呼びかけ対象：近畿2府4県の私立大学・短期大学

年	月	高等学校 参加数	参加人数	大学・短期大学 参加数	参加人数	参加総人数
2012	4	44	49	83	90	139
2012	10	48	51	81	90	141
2013	4	55	60	93	101	161
2013	10	47	51	73	77	128
2014	4	40	54	76	81	135
2015	3	31	41	68	73	114
2015	10	51	56	70	73	129
2016	9	46	50	68	75	125
2017	9	60	67	*82(68)	74	141
2018	9	71	79	*71(66)	82	161
2019	9	83	91	*73(63)	75	166
2020	9	66	69	*70(59)	65	134
2021	9	63	67	*57(52)	65	132
2022	9	60	66	*66(63)	*64(63)	130
2023	9	64	70	*71(63)	*78(73)	148
2024	9	68	77	*75(66)	88	165
2025	9	65	72	*75(66)	85	157

*大学・短期大学で1校の参加とした数を、（ ）付数字で記しています。

○参加校一覧

参加大学・短期大学 （府県別50音順）

大阪府：藍野大学・藍野大学短期大学部／追手門学院大学／大阪青山大学／大阪観光大学
大阪キリスト教短期大学／大阪経済大学／大阪経済法科大学／大阪芸術大学・大阪芸術大学短期大学部
大阪健康福祉短期大学／大阪工業大学／大阪歯科大学／大阪樟蔭女子大学／大阪商業大学
大阪女学院大学・大阪女学院短期大学／大阪信愛学院大学／大阪成蹊大学
大阪総合保育大学・大阪総合保育大学短期大学部／大阪体育大学／大阪電気通信大学
大阪常磐会大学・大阪常磐会大学短期大学部／大阪保健医療大学／大阪夕陽丘学園短期大学
大谷大学／関西医療大学／関西外国語大学／関西大学／関西福祉科学大学・関西女子短期大学
近畿大学／四條畷学園大学・四條畷学園短期大学／四天王寺大学／摂南大学／千里金蘭大学
相愛大学／太成学院大学／宝塚大学／帝塚山学院大学／梅花女子大学／阪南大学
東大阪大学・東大阪大学短期大学部／桃山学院大学／森ノ宮医療大学
京都府：京都外国語大学・京都外国語短期大学／京都経済短期大学／京都光華大学／京都産業大学
京都西山短期大学／京都文教大学／佛教大学／平安女学院大学／龍谷大学
兵庫県：大手前大学／甲南大学／神戸国際大学／神戸松蔭大学／神戸女学院大学／神戸常盤大学
神戸薬科大学／園田学園大学／武庫川女子大学
奈良県：畿央大学／帝塚山大学／天理大学／奈良芸術短期大学／奈良大学
滋賀県：長浜バイオ大学／びわこ成蹊スポーツ大学

参加高等学校 （名簿順）

Aグループ：上宮高等学校／大阪女学院高等学校／追手門学院大手前高等学校／開明高等学校／興國高等学校
大阪偕星学園高等学校／ヴェリタス城星学園高等学校／相愛高等学校／プール学院高等学校
Bグループ：常翔学園高等学校／大阪国際高等学校／関西創価高等学校／四條畷学園高等学校
香里ヌヴェール学院高等学校／太成学院大学高等学校／東海大学附属大阪仰星高等学校
長尾谷高等学校
Cグループ：好文学園女子高等学校／金蘭会高等学校／アサンプション国際高等学校／宣真高等学校
大商学園高等学校／梅花高等学校／箕面学園高等学校／昇陽高等学校
Dグループ：大阪薫英女学院高等学校／大阪青凌高等学校／追手門学院高等学校／関西大倉高等学校
関西大学第一高等学校／向陽台高等学校／金光大阪高等学校／星翔高等学校
早稲田大阪高等学校／関西大学高等部
Eグループ：上宮太子高等学校／大阪学芸高等学校／あべの翔学高等学校／大阪緑涼高等学校
建国高等学校／帝塚山学院高等学校／浪速高等学校／阪南大学高等学校／明浄学院高等学校
天王寺学館高等学校／YMCA学院高等学校
Fグループ：大阪商業大学堺高等学校／香ヶ丘リベルテ高等学校／精華高等学校／清教学園高等学校
大阪暁光高等学校／帝塚山学院泉ヶ丘高等学校／羽衣学園高等学校／大阪立命館高等学校
八洲学園高等学校／秋桜高等学校／東大谷高等学校／神須学園高等学校
Gグループ：大阪商業大学高等学校／東大阪大学柏原高等学校／関西福祉科学大学高等学校
近畿大学附属高等学校／金光藤蔭高等学校／東大阪大学敬愛高等学校

近進協事務局参加高等学校

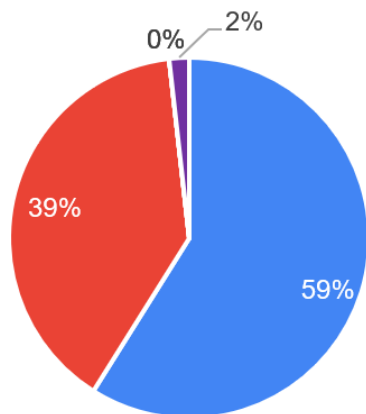
和歌山東高等学校

②

令和7年度高大連携情報交換会 アンケート結果

I. 全体を通しての感想について

56 件の回答

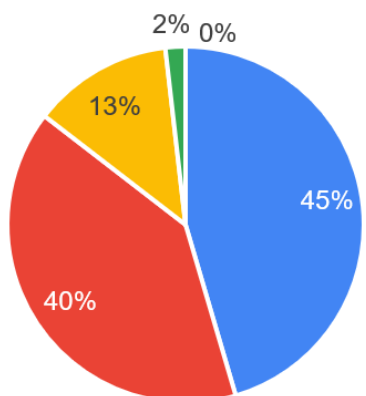


- 大変良かった
- 良かった
- ふつう
- あまり良くなかった
- 良くなかった

	今年	昨年	一昨年
大変良かった	58.9%	51.3%	39.8%
良かった	39.3%	47.4%	53.4%
ふつう	0.0%	1.3%	6.8%
あまり良くなかった	0.0%	0.0%	0.0%
良くなかった	1.8%	0.0%	0.0%

II. 「全大会・基調講演」について

55 件の回答



- 大変良かった
- 良かった
- ふつう
- あまり良くなかった
- 良くなかった

	今年	昨年	一昨年
大変良かった	45.5%	35.5%	24.4%
良かった	40.0%	48.7%	46.5%
ふつう	12.7%	14.5%	29.1%
あまり良くなかった	1.8%	1.3%	0.0%
良くなかった	0.0%	0.0%	0.0%

III. 「全大会・基調講演」について、ご意見・ご要望がございましたらお願いします。

25 件の回答

<大学・短期大学>

- ☆ 変わりゆく受験業界について、エンゲージメントの重要性を理解しました。
- ☆ 可能ならば資料が細かかったので手元資料として配れるものは配ってほしかった。
- ☆ 高校・大学・社会それぞれの立場や状況を踏まえたお話でとても参考になりました。可能な範囲でかまいませんので、当日の資料をいただき学内で共有できればと思います。
- ☆ 他大学の状況や関東での様子、高大連携の必要性、実情などを聞けてまだまだ改善の余地があると感じました。
- ☆ とてもわかりやすいご講演をありがとうございました。関東の事例もよいですが、関西の事例が中心であればよりよかったと感じました。

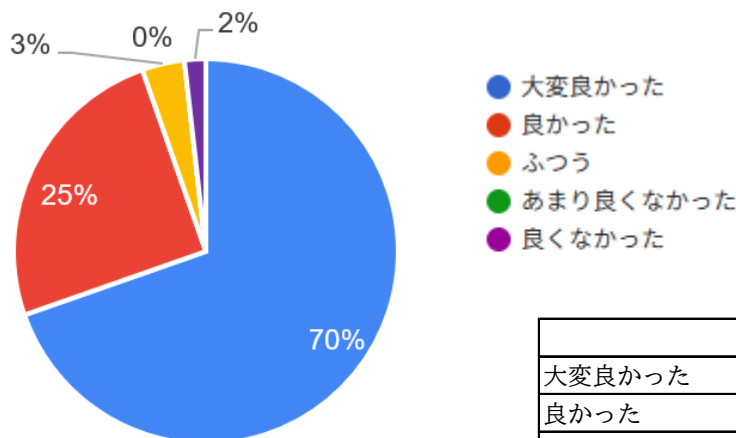
- ◇ 全大会・基調講演はあいにく欠席させていただきました。
- ◇ 事務局長のご挨拶において、ご要望がしっかりと話されたので伝わりました。また、基調講演からは、今後の高大接続を考えるうえで大変多くの示唆をいただきました。本学の方針を検討するうえで参考にさせていただきます。
- ◇ 当日のパワーポイント資料もいただきありがとうございます。
- ◇ エンゲージメントという視点から高大連携の必要性を提示されている点が興味深かった。
- ◇ 大学と生徒のマッチングを考えた適切な広報・教育が必要であると再認識させられました。貴重なご講演ありがとうございます。
- ◇ 基調講演については、成功モデルをいくつかご提示くださり、理想の高大連携の姿を把握できました。
- ◇ 資料もわかりやすく、高等教育に何が求められているのかよく分かった。

<高等学校>

- ◇ 基調講演で手元の資料がなく、スクリーンへの投影のみでしたので、字や図をもう少し大きくしていただけると助かりました。
- ◇ 「7年一貫教育」ぜひ実現したいです。
- ◇ 取りまとめ頂いた先生方、ありがとうございます。
- ◇ 進路指導の中では大学入試にのみ、注視していますが、大学卒業後の就職に関しての「エンゲージメント」について理解することで、今後の大学入試の指導のあり方や受験戦略について考える機会となりました。ありがとうございます。
- ◇ 大変深く視野の広いお話をいただき、これまで私が持っていた進学指導の常識をあらためることができました。ありがとうございます。
- ◇ 高大連携の新たな可能性を示唆していただきました。
- ◇ 最近の入試傾向を知れて良かったです。
- ◇ 手元に資料があればある程度予想しながら講演を聞けたと思います。画面で見せている時間で資料を吟味するには少々時間不足でした。
- ◇ 大学の方々が多数来られていたので仕方ないと思いますが、大学関係者向けの内容だったと思います。高校にとって参考にできそうなものも若干ありましたので、これから活かしていきたいと思います。
- ◇ 高大連携はもっと活発に行われたらよいと思いました。
- ◇ 高大連携の理想的な形をお示し頂いたのは参考になったのですが、いざ現場に落とし込むとなると高校、大学側双方に難しい点が多々あり、生徒の学力層によっても取り組みが変わる部分が出てくるような気がしました。本気で進めるのなら、実際どこかの糸口から何かを取り出して、システマティックに進めて行かざるを得ないのかなとも思いました。

IV.「分散会」の感想について

56 件の回答



	今年	昨年	一昨年
大変良かった	69.6%	53.9%	51.1%
良かった	25.0%	38.2%	39.8%
ふつう	3.6%	5.3%	9.1%
あまり良くなかった	0.0%	2.6%	0.0%
良くなかった	1.8%	0.0%	0.0%

V.「分散会」について、ご意見・ご要望がございましたらお願いします。

33 件の回答

<大学・短期大学>

- ◇ 高大連携事業について、高校側の率直なご意見が聞けたことで、今後の事業をブラッシュアップしたいと思います。
- ◇ 高校側が感じている事、疑問に思っている事などを聞くことが出来て大変有意義な時間になりました。今後も継続していただければと思います。
- ◇ 毎回そうですが、いろいろなお話が聞けるので分散会はとても有意義です。講演なしの2回転でも良いかと思っています。
- ◇ 今回16名のグループでした。人数的にはこれくらいが上限であるように思いました。
- ◇ 進行の先生のおかげでぎくばらんな雰囲気の中で話しやすく、色んなお声を聞かせて頂きました。各校様々な状況で、非常に勉強になり充実した90分でした。
- ◇ 高校現場の実情と各大学での取り組み等を伺うことが出来ました。非常に貴重な機会となり、勉強になりました。
- ◇ 高等学校様より貴重な現場のご意見を頂戴できる機会となっており、大変有意義な機会をいただいております。ありがとうございます。
- ◇ 経験が少なく、皆さんに色々勉強させていただきました。
- ◇ 高等学校の先生からの貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございます。
- ◇ 和やかな雰囲気では有意義な会でした。
- ◇ 進行がスムーズで良かったと思います。
- ◇ 高校の先生方の年内入試に関するお考えや進路指導に対する思いを知ることが出来て良かったです。
- ◇ 先生方の率直なご意見も拝聴でき有意義な時間になりました。もう少しだけ時間があれば、と思いました。

- ◇ 各高等学校様の生のご意見が聞けて非常に感謝しております。
- ◇ 大学・高校の本音が聞けいつも大変参考になります。運営準備等、感謝申し上げます。
- ◇ 高校訪問などで日ごろから先生方と様々な意見交換をさせていただいておりますが、そこではなかなか聞けないようなざっくばらんなお話ができ、大変勉強になりました。また、他大学の事例なども知ることができ、今後に生かしたいと思えました。
- ◇ 分散会に移ってからは、学校法人で大学を有する高等学校の先生から、高大が隣の敷地であっても、マッチングが上手いかず、高大連携はできていないことなど、現実の問題を把握できました。逆に、短期大学では、関連高校からの進学が、経営の柱となっていることなど、積極的な面も協調されているので、成功の鍵は高大の歩み寄りであるとの理解を深めました。
- ◇ ざっくばらんに忌憚ない意見・情報交換ができ、大変有意義だった。

<高等学校>

- ◇ 率直なご意見いただき、貴重な学びを得ました。ありがとうございました。
- ◇ 各大学や各高等学校の取り組みを知ることが出来て良かった。
- ◇ 多様な総合型選抜にどのように対応するべきかのヒントをいただいたとともに、高校での総合型選抜への対応の難しさを共有することができました。また、高大連携の取り組みを紹介していただいたことで、今後本校でも取り組みに向けて検討したいことが出てきました。
- ◇ 途中退出して申し訳ありませんでした。本県内で起こった事象（入学前に閉校や学科募集停止が決まり、生徒の進路に大きな影響があったこと）を大学・短大側に伝えることができてありがたかったです。また、公募推薦の変更に伴う資料の追加に対して、どのような対応をされているかわかり、大変有意義でした。
- ◇ 参加していただいたみなさんのご協力で今回も新たな視点を得られました。
- ◇ 大学の意見と他校さんの意見を聞くことができ、大変参考になった。
- ◇ 初めて参加させていただきましたが、得られる情報が年内入試の話ばかりで、参加する意味を見いだせない会であると感じました。進路の目標が同程度である高校群と、その目標となる大学群とを一つのグループにしていきたいと思います。
- ◇ 運営がスムーズでした。役員の方々、お疲れ様でした。
- ◇ 高校側の出席数がもう少し多い方が良いかと思います。
- ◇ 大学も高校も、それぞれに事情が異なるので対話できるだけでも励みになります。
- ◇ 素朴な疑問も解消しましたし、お互いに有益な情報が交換できたと思います。限られた時間の中ですので、テーマを絞っての意見交換にしても良いかと思いました。
- ◇ 他校の先生方と話す機会は有意義だと感じています。
- ◇ 業者を挟んだ大学別説明会について、大学側がかなり出費の面で困っておられる事を伺ったのですが、高校側としてはイベント全てを無料にして段取りを教員が賄うなど、多忙を極める中で完全に不可能です。高校側としても、業者に大学側のご意見を伝え、もう少しリーズナブルに運用出来る環境を整えてもらう事も必要かも知れません。
- ◇ 高大連携を具体的に進めるのは高校側も大学側も難しいことだとわかりました。その他色々なお話ができて良かったです。

VI. 大阪私進研では、「高大連携情報交換会」を大切なイベントと考えております。この取り組み全般について、ご感想やお気づきの点がございましたらお願いします。

32 件の回答

<大学・短期大学>

- ◇ 高校、大学側それぞれの考えを認識、共有できる良い取り組みだと思います。
- ◇ とても貴重な機会であり、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ◇ 奈良県からの参加ですが、毎年貴重な時間をいただき、感謝しております。今後も毎年参加しますので、よろしくお願いいたします。
- ◇ 多々準備いただきありがとうございます。アンケートや講演、分散会でお聞きしたことを今後活用したいと思います。「今」の情報を頂ける場は多くないので、大変有意義な時間でした。
- ◇ 初めての参加で緊張しましたが、得るものが多く、参加させて頂けて良かったです。ありがとうございます。先生方からいただきました、リアルな声は次年度の高大連携や入試設計にも反映させて頂けるよう努めて参りたいと思います。今後とも何卒よろしくお願いいたします。
- ◇ 高校現場の実情と各大学での取り組み等を伺うことが出来ました。非常に貴重な機会となり、勉強になりました。
- ◇ 基調講演も素晴らしいですが、分散会が大変有意義です。できれば、分散会を2部制にしていたきたく存じます。より多くの高等学校の先生方と情報交換・意見交換したく存じます。
- ◇ 貴重な意見交換ができるので、是非続けて欲しい。
- ◇ 分散会の時間が90分で、少し時間が短い感じがしました。分散会のグループ分けの人数調整など大変かと思いますが、参加人数に見合う時間配分の調整など、可能であればもう少し分散会の内容も充実したものになる気がします。この度は参加させていただきありがとうございました。
- ◇ 本学としても重要で貴重な機会と捉えております。休憩時間がもう少しあれば、その時にお話ししたい高校の先生や大学の関係者と個別の情報交換をしやすいと感じる面もありますが、運営上は難しいと承知しております。
- ◇ 毎年、とても参考になっています。このままの実施方針で構わないと思います。
- ◇ お疲れ様でした。さらに、多くの高等学校が参加されんことを期待いたします。
- ◇ この度はお世話になり有難うございました。全大会・基調講演、分散会、非常に有意義な時間になりました。今後とも宜しく願い申し上げます。
- ◇ 資料作成、当日の運営など幹事校様はじめお世話をおかけしますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。
- ◇ 基調講演と分散会の内容が、理想と現実に対比させて認識できました。興味深く参加させていただきました。
- ◇ 兵庫県にもこのような会が欲しいと大変うらやましく感じました。高校生の進路を決めるにあたり、それに携わる者すべてがこのような時間を共有することが大切だと感じた。

<高等学校>

- ◇ 他校様や大学様のご意見を聴くことができ、本当に貴重な機会だと考えております。ぜひ継続していただくと幸いです。
- ◇ 旬の話題について忌憚のない情報交換ができる、大変貴重なイベントだと思います。ありがとうございます。
- ◇ 他の高等学校の取り組みなど大変参考になりました。大学によって異なる取り組みや視点があって興味を持って参加することが出来ました。役員の方々には調整や司会進行などお世話になりました。
- ◇ 大学関係者と様々な情報共有ができるのは、非常に貴重な機会です。今後も参加していきたいと思います。ありがとうございました。
- ◇ 運営には大変なご苦労があるかと思いますが、私のような組織外の者も快く受け入れてくださったことを深く感謝します。大学・短大側と意見交流ができる場は非常にありがたいです。今後とも継続をお願いします。
- ◇ 貴重な機会ですので今後とも継続していただければと思っています。
- ◇ 特にございません。先生方におかれましては、校務等で大変お忙しい中、ご準備、当日の運営などでご対応いただきまして、誠にありがとうございました。
- ◇ 情報交換会を実施することは大切なことだと認識しておりますが、得られる情報が本校にとって必要でないものばかりになってしまうことは残念でなりません。今後のグループ分けを見直していただきたく思います。
- ◇ 基調講演は、近年の進学傾向や生徒の入試に対する動向が、非常にわかりやすかった。また、分散会は今年度の公募推薦の変更点や書類などの詳細を直接入試担当の方から聞くことができ、有意義な時間となりました。企画・運営、いつもありがとうございます。
- ◇ 踏み込んだテーマは会が盛り上がるので、次回も期待しています。
- ◇ 大学側は教授ではなく広報が、高校側は授業と進路指導両方を担当する教員が来て話をするので「表向きそうですよね」という意見で終わるのも仕方ないかと思います。ご準備お疲れ様でした。有難うございました。
- ◇ 貴重な機会を毎年ありがとうございます。ご準備に当たってくださった先生方に感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。
- ◇ 多くの大学、高校の先生方と話せたらと思います。
- ◇ 本部の先生方には、毎年、ご苦労を頂きありがとうございます。大学様の生の声を沢山聞ける機会は有り難いです。なかなか難しいですが、テーマを2つくらいに精査して頂くか、いつも話し足りないくらいなので、もう少し時間があっても良いと思います。
- ◇ 分散会終了後に名刺交換ができるような機会があればと思いました。
- ◇ 毎年一度に色んな学校のお話が伺えるのが助かりますので、今後も継続をお願いします。

③

令和7年度「高大連携情報交換会」分散会報告書（まとめ）

大阪私立高等学校進路指導研究会

（１）グループ

報告書担当校 開明高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 16 日 (火)	開催場所	私学会館 3 F 301 号室
参加校	大学・短期大学：藍野大学短期大学部，大阪芸術大学，大阪信愛学院大学，大谷大学， 京都医療科学大学，近畿大学，四條畷学園大学・四條畷学園短期大学， 帝塚山学院大学，びわこ成蹊スポーツ大学 高校：大阪商業大学高等学校，開明高等学校，好文学園女子高等学校， 早稲田大阪高等学校，関西大学高等部，大阪体育大学浪商高等学校， 東大阪大学柏原高等学校 以上 17 校 17 名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	総合型選抜への出願指導		
総合型選抜について			
・ エントリー後出願が許可されてから出願までの日程がタイトになっている（高校） →オープンキャンパス参加型だけでなく複合的に出願できるようにしている ・ 総合型と指定校のエントリーの仕方について →切り替えは柔軟に行っている（大学） ・ 総合型と指定校を生徒はどう選んでいるのか（大学） →減免制度が大きく影響しているわけではない			
学校推薦型選抜について			
・ 書類(調査書，志望理由書)は従来より点数化している ・ 志望理由書は点数化しないが，志望理由書を踏まえた口頭試問で選抜している ・ 文科省の経常費補助のために，複雑化している ・ 出願時に小論文を導入，高校の負担を考えて点数化しない ・ 併願制のため受験生や高校の負担を考えると複雑化したくない ・ 志望理由書を導入したが「参考程度」としている			
(事前出願書類の生成A I の使用について)			

- ・使用したとしても面接で確認するので影響はない

高大連携について

(高校)

- ・講演会や模擬授業を高校で実施している，大学での勉強を理解するよい機会になっている
- ・系列大学の模擬講義を探究学習で実施している
- ・系列大学を含め他大学とも連携している，土曜日の授業にあてる方向も模索

(大学)

- ・代理店を通さない大学での見学会が増えている
- ・大学と地元地域，高校生をつなぐプロジェクトを検討している
- ・単発のつながりではなく包括的な連携を模索したい，産学連携の中に高校生も参加できれば活性化
するのでは
- ・高校へ出張講義，キャンパス見学，探究授業への支援
- ・協定校と単発の出張講義，キャリア教育を行っており出願にもつながっている
- ・連携校との間で「総合的な探究学習」を通して研究の仕方などを伝えており，継続的な関わりを
持ちつつある
- ・高大連携によって志願につながる面がある反面，困ったことも，専門外分野の要望には困難

事前提出書類について

→「自筆のみ」が多い，電子データが数校

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

文科省より 2/1 以前の学力のみによる選抜の見直しが求められ，各大学の学校推薦型・総合型選抜の実施について若干の変化は見られたが，本質的には変わっていない印象を受けた。高校は早期選抜による教育活動の弊害を憂慮し，大学は入学者の基礎学力の脆弱さから高等教育の質の低下を憂慮する，という構図がこの間続いているように思う。高大連携の事例も紹介されたが，大学入学者選抜が高大の教育接続の根幹の問題であることを，今後も議論の中心に据えなければならいだろうと感じる。

(2) グループ

報告書担当校 香里ヌヴェール学院高等学校

開催日	令和 7年 9月 16日 (火)	開催場所	私学会館 3F 302号室
参加校	大学・短期大学：藍野大学，大阪芸術大学短期大学部，大阪成蹊大学，関西大学， 関西医療大学，京都外国語大学，甲南大学，帝塚山学院大学，佛教大学 高校：上宮高等学校，長尾谷高等学校，宣真高等学校，香ヶ丘リベルテ高等学校， 近畿大学附属高等学校，追手門学院高等学校，香里ヌヴェール学院高等学校 以上 16校 16名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	①資料確認 ②自己紹介と大学の高大連携概況 ③高大連携の高校実施状況について（情報交換）		
1. 資料確認 2. 自己紹介と大学の高大連携概況 ・ 高大連携は別部門で動いている：1校 ・ 高大連携には実施していてもまだ正解を見つけられていない：1校 ・ 90分間の授業に入ってもらえるなどのイベントを行っている：1校 3. 高大連携の高校実施状況について ・ 進路部の中に高大連携課がある。大学によって WEB 授業などさまざまな形を取っている。 ・ 進路部で行っている。通信制のため授業を置き換えるのが難しい。 ・ コースに合わせて、それぞれ来校していただいている。高大連携の窓口は進路。 ・ 4コースの一部のコースのみエッセイコンテストなどで行っている。進路部だけでなく役割分担を考えている。 ・ 併設の短期大学と行うが、学年なら進路が動く ・ 探究学習の流れで大学と繋がりを持っている。大卒は進路であるが、その中の探究課や進路課などがそれぞれの内容を元に担当する。 ・ 他大学とはいくつか連携を組んでいる。系列大学とはあまり連携していない。進路が窓口になることが多い。専業が居る訳ではない。 ※以上のように組織だって高大連携を考えているところは少ないという意見があった。			

(問い) こんな連携が出来たら良いなあと考えるものがあるか？

- ・単発的には出来そう。高校と大学で3年4年の7年プランは難しいのではと考える。高校のカリキュラムや行事の中で行う。継続的なものについても。大学は入試で忙しい時期もあるので、高校側が動きやすい時期を考えて高大連携をお願いすると、難しいのではないか。
- ・探究入試について、あるいは特色入試のやり方などをレクチャーしてくれる高大連携なども良いのではないだろうか。

※高校から大学入試（総合型）を意識した連携を希望する声が上がった。

- ・7年間の長期にわたる連携は理想的だが、学校の規模感から学年で行うのは難しいが、特別に組まれた2～3名の生徒とWEB授業（理系）やその中での課題を大学の先生が指導をしてくれている。レポートの書き方なども細かな指導をしてくれている。
- ・大学生が対応している場合もある。
- ・WEB授業は本校では単位が認められないということもあり、難しいと考える。大学のレポートは高校生には難しすぎる。
- ・短期大学の現状が厳しい中、他校とは違った悩みがある。春休みや夏休みの高校用に単位が取れる講座を開講してくれることもある。

(問い) 大学から高大連携の提案や課題感などはあるか

- ・学年全体では難しいけれど、一部の生徒、夏休みの集中講座などの単発講座が現状。大学の先生や学部の協力も温度差がある。生徒の成果も目に見えるものが出来る学部はやりやすい。
- ・見学会など単発で行うことが難しいところもある。

(問い) 単発的な高大連携で入試優遇などがありますか？

- ・協定校を対象にした語学に関する高大連携授業を行うと入試優遇がある。すべての学科について知って欲しいが、そのデザインは難しい。さらに増やして行きたい。入試の形として協定校やオープンキャンパスの模擬授業などもある。入試広報部からの提案に乗る形のである。
- ・高大連携授業と探究の連携で入試優遇があるものが2パターンある。高校2年生対象にすることもあるが繋がっていない。高校3年生はあまり時間が無い。あまりMatchしていないという悩みがある。ワークショップ形式のものでも入試に繋がるものも作っているがまだまだブラッシュアップしていく必要がある。

※難しさと可能性が共存しているように思われる。

(問い) 探究学習との高大連携について

- ・探究課があり、そこに専任が8人いる。一般教員は何をやっているかは分からないことが多い。

高知大学の地域創造と高大連携と称して探究活動や課題解決を高大連携で行う。このような経験をするとそのコースの生徒は多様性が生まれる。

(問い) 各大学からの質問

- ・ 6月4日の文部科学省からの年内入試に関わる自己推薦文の指導はどうしているか。
- ベネッセのキャリナビというサービスで行った。あらかじめ準備が出来ていた。また外部講師による対応を行った。
- 総合型選抜、就職指導など文書を生徒から見てほしいという依頼が増えている。結構負担がかかっている。
- 9割くらいが年内で終わる。添削は担任が行う。進路部長も探索する。
- 今年から急遽ということもあるが、なぜ大学に行きたいのかをしっかりと考えさせている。
- 基本は担任の先生に添削をお願いしている。生成AIに頼る生徒もいる中で、他校はどのようにしているのかを知りたいと考えている。
- 学校は善なる場であるなら、添削を依頼するならそれを受ける。大学進学に向けて志望理由をしっかりと考えさせることは大切。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

- ・終始前向きな意見が交換された。
- ・参加者全体にも話がふられ、各高等学校、大学ともに特色ある取組についてしっかりと共有された。

(3) グループ

報告書担当校 大商学園高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 1 6 日 (火)	開催場所	私学会館 3 F 3 0 3 号室
参加校	大学・短期大学：大阪経済大学，大阪健康福祉短期大学，大阪成蹊大学， 大手前大学，関西大学，京都外国語大学・京都外国語短期大学， 神戸芸術工科大学，摂南大学，天理大学，平安女学院大学 高校：上宮太子高等学校，大阪偕星学園高等学校，金蘭会高等学校，建国高等学校， 金光藤蔭高等学校，精華高等学校，大商学園高等学校，箕面学園高等学校 以上 1 8 校 1 8 名参加		
時 程	1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0		
内 容	1 高大連携の事例について 2 6月の文部科学省通達が与えた影響 3 出願書類作成におけるA I 利用について		
1 高大連携の事例について ➤ 多様な授業提供の事例紹介 ✧ 大学の体験授業とその後のレポート提出などを入学要件の一部とする「授業体験型入試」 ✧ 大学の教員が高校に出向いて学びや大学を紹介する連携や、法人の系列校の高校生が大学を訪問しての交流 ✧ 駅前の小さなサテライトキャンパスで放課後に試験的に実施した「外国語レッスン」 ✧ 大学に高大連携に特化した専任教員を配置し、高校の探究アドバイザーとしての役割も果たしながら進行中 ✧ 公務員を志望する生徒向けの「公務員対策講座」といった活動なら大学と連携して展開できるかもしれない ➤ 実施上の課題と要望 ✧ 高校からの依頼に基づき「模擬講義」や「出張講義」を実施しているが、継続的な教育活動にまで至らない ✧ 大学から魅力的なプログラムが提供されても高校側が授業時間を確保することが非常に難しい ✧ 放課後に希望者を募って実施しても、部活動などと競合し、生徒が集まらない ✧ 大学の先生方の授業日程と、高校側が希望する時間帯が合わない ✧ 大学との連携を深めるため、高校側が「高大連携担当係」を設ける必要も出ている ✧ 高校側からは、大学見学やキャンパス見学会と模擬授業を組み合わせるなど、生徒が幅広い学びに触れられる工夫の要望			

- ✧ 模擬講義の内容が生徒のニーズやレベルとミスマッチを起こし、授業についていけない生徒の存在→コンテンツの提示とニーズのマッチングが重要
 - ✧ 業者を介しての大学との連携は、高校の真の要望が見えにくいという欠点がある一方、高校が個別に対応する負担を考えると業者の利用も有用という意見もある
 - 高大連携入試・入試制度と募集に関する事例・意見
 - ✧ 指定校推薦と総合型選抜の中間のような位置づけではあるが、その区分が曖昧だという高校側の意見
 - ✧ 大学側で選定を学部が行うなど、内部的な差別化を図っているという事例
 - ✧ 指定校推薦より学費の優遇や成績面での条件が優れている場合があり、進路指導の現場で戸惑いも生じている
 - ✧ 指定校推薦と異なり欠席要件がない場合があり、欠席の多い生徒にとって進学の道を開くありがたい制度にもなっている
 - ✧ 大学側が協定校に対し、指定校推薦より早い日程（10月）での優遇措置を提供しても、生徒が進路を11月まで検討したい意向が強い場合は、応募が集まらないという事例もある
 - 高大連携の効果と教員の意識
 - ✧ 高大連携プログラムは、純粋な学びの提供に加え、高校生に大学の実際を「たくさん知ってもらえる」場となっている
 - ✧ 出前授業や大学見学で生徒が「面白い」と感じた場合、その大学を受験する生徒数が増加する傾向がみられる
 - ✧ 大学の教員側には、高校との連携を負担と覚めることもあり、学内での意識改革を進める必要性も議論されている
 - 外国籍生徒への対応の課題
 - ✧ 家族滞在などの在留資格を持つ外国籍の生徒に対し、外国人向けの入試（留学資格者向け）ではなく、総合型選抜等で対応せざるを得ない状況がある
 - ✧ 日本で長く育った外国籍の生徒が、外国人向けの書類提出を求められることで、進路の幅が狭くなってしまうという問題も指摘
 - ✧ 日本の大学入試において、日本語能力試験の提出がかえって「日本語ができない」というアピールにつながり、不利に働くのではないかという懸念が、高校の現場で生じている
- 2 6月の文部科学省通達を与えた影響…昨年度の関東地方での事例の余波を受け、学校推薦型選抜（特に公募制推薦）の対応策として通達が出された
- 書類提出の義務化/変更：関西圏の多くの大学で、志願者に対して志望理由書（200～500字）の提出が求められるようになった

- 大学の対応方針：大学側は従来の受験制度を維持する等の対応をしつつ、「高等学校と受験生に負担をかけない」ことのバランスを取ることに苦慮
- システム上の負担：通達が急だったため、Web 出願システム（ウカロ出願など）の入力対応が追いつかず、多くの大学で受験生に志望理由書をダウンロード、入力、印刷し、調査書と共に郵送するという手間を強いる結果になった
- 評価の曖昧さ：大学は提出書類の評価について「総合的に判定/評価する」という表現を使用し、高校側からすると不透明。一部の大学は「逃げています」ような表現となったと感じている
- 点数化に関する混乱：「総合的評価」の表現により、志望理由書の点数化について高校や受験生、保護者から多くの質問が寄せられる。→これを受け、ある大学では募集要項外で「点数化せず」ということをホームページや資料で明記する対応
- 大学間の対応の差：一部の大学は大きな変更を行わなくても通達の趣旨に反しないという判断

3 出願書類作成におけるAI利用について

- 書類のクオリティ向上：近年の入試傾向として、特に総合型選抜における志望理由の記述は、AIの使用以前に比べ非常に高いクオリティになってきている
- 将来的な懸念：
 - ✧ 新たに提出が求められるようになった志望理由書の作成において、AIの利用増加が懸念
 - ✧ AIを使って作成された文章の増加は、誰が書いたのか見分けがつかないなど、入試の公平性の確保において大学側が困る事態につながる可能性が示唆
- 大学側の対応：大学側は、AI利用に関する具体的な対応（許可するかどうかなど）について、今年文科省の急な通達への対応に追われたため、まだ十分な議論や検討が進んでいない状況
- 高校の対応：AI利用への対応策として、高校側は提出された志望理由書の内容を、その後の面接や口頭試問で本人の知識として語れるか、指導を強化する必要性を認識

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

全体会の基調講演を受けて「高大連携」の事例から振り返ったこともあり、各大学・高校から様々な活動事例が報告され、課題点の共有や新たな問題意識を持ち帰ることのできる分散会となったと思う。また、先般の文科省通達による公募推薦入試への影響や出願書類作成におけるAI利用など、現在最も注目を集める話題についての意見交換は刺激的で参考になるものが多かった。こうした貴重な話題に関して参加者一人一人の意見を深掘りする時間が足りず、その点が残念ではあったが、議長が事前に議題を3つに絞るなど工夫や絶妙な進行ぶりによって全体的に充実した話し合いの場になったと考える。

(4) グループ

報告書担当校 関西大学第一高等学校

開催日	令和 7年 9月 16日 (火)	開催場所	私学会館 3F 304号室
参加校	大学・短期大学：大阪青山大学，大阪工業大学，大阪総合保育大学・ 大阪総合保育大学短期大学部，関西医療大学，京都経済短期大学， 神戸国際大学，四天王寺大学，摂南大学，奈良大学，武庫川女子大学 高校：ヴェリタス城星学園高等学校，昇陽高等学校，大阪学芸高等学校， 八洲学園高等学校，東大阪敬愛高等学校，興国高等学校，関西大学第一高等学校 以上 17校 17名参加		
時 程	15:30～17:00		
内 容	年内入試と一般入試について 司会：現役高校生に何を期待し、何を身につけて欲しいのか。年内入試（推薦入試）での志望理由書などの具体的取り扱い 大：公募制は総合型の範疇とし、志望理由書を加え点数化する。 10点/225点 大：志望理由書は点数化しない。参考資料にとどめる。添削不要で自分の言葉で書くことをアナウンスしている。これまでの関西式のやり方でやりたい気持ちはある。 大：今回の入試では志望理由書は求めない。 大：同上。小規模大学で、一般入試においても面接は実施しており、その際の基礎資料としては以前から志望理由書を求めている。 大：指定校・A0に関しては志望理由書を求めている。その他に関しては導入を検討中。 大：従来通りで進めている。日程等については非公式なやり取りを参考に設定した。 大：導入を決めかねている。今年度については変更なし。次年度は導入の方向。 大：公募制推薦においても志望理由書の提出を求めることとなった。理由書の点数化はしない。 「総合判断」の一部とはなるが。200字～300字程度。アドミッションポリシーに関し、入学後どのように頑張るかを書いてもらう。 高：出願システムに志望理由書を組み込まれたか。 大：今年は間に合わない。様式のみWEBに上げ、プリントアウトしていただき提出。次年度以降はシステム化したい。 高：文章のチェックにAI導入予定はあるか。 大：あります。 司会：年内専願制入試について、高校はどう捉えておられるか 高：800在籍中300名程度が年内入試で進路を決める。学校が一般入試にフォーカスしているため、徐々に減っている。		

高：やはり一般入試にフォーカスしている。が、年内入試受験者は増加している。指定校よりも総合型で受験。

高：指定校進学者は減ってきている。一方で総合型受験者が増加。生徒は大学とのマッチングを慎重に考える傾向が強まっている。

高：学校としては一般推しだが、実際には年内入試で進路を決定する生徒が多数いる。目標がはっきりしたら年内に決定することが多い。

高：関西式の公募推薦は良い制度と考える。一般入試の負担集中を分散できる。また、生徒の特性を見て、総合選抜向き、指定校向きによって3種類の指導を進めている。これからもそう。

高：生徒の適性に応じて進路指導。通信制、少人数制ゆえの指導となる。

司会：大学はA0の生徒なのか、一般入試の生徒なのか、どちらを求めているか

大：入学後の成績高い順からA0、公募、一般、指定校となっている。指定校でのミスマッチが一番痛い。

大：一般が高い 指定校と付属進学は両極化 公募制は低い（ので廃止した）。

大：公募が高い ただ、A0入学で頑張る学生もあり、募集枠を広げていく方向

大：肌感覚であるが、学科による。学力もあるが志願者数も無視できない実情もある。

司会：この件に対し何か質問やご意見・ご質問あれば

高：学期制を敷いており、年内入試への出願に不自由している。高3の調査書が遅い時期にしか出せない。それでも出願できるようにしてほしいと感じている。

司会：支援が必要な生徒への対応について。発達障害等への対応の実情はどうか。

高：昨年度、高機能自閉症や多重人格障害を持つ卒業生が大学に入学した。大学ではうまくやれているようでした。各大学様の対応が細やかであることが推察されます。ありがとうございます。

大：要支援者に対しての理解が世間的に浸透してきた。大学であっても、合理的配慮へのできる限りの対応をすることは可能。入学後すぐに友達作りのランチパーティーの機会や、保護者との連絡を密に取るような取り組みを行なっている。保護者、教員関係なく遠慮なく申し出ていただければいいと思う。

大：配慮学生の情報共有の機会を部内で設けている。

大：事前の相談が入試に不利に働くことはない。部署を設けて支援の形を模索しながら進めている。

大：入試要項に相談部署を記載している。事前に相談していただければ、具体的な対応について早くからやり取りが可能となる。

大：入学前に「支援合意書」を取り交わす。合意書は詳細にわたり、支援の形や情報共有の範囲に至るまで合意確認をとって、実際の支援を進めていく。

大：指定校推薦の高校内選考について。数値上条件をクリアしていれば、諸々の個性があっても

出願者として選出するのか。

高：事前に受験大学に相談を必ず行なっている。

高：高校側に知らせていない家庭もある。その場合は数値のみで選出している。他校での学校側への申告状況はどうか。

高：学校側から何度も水を向けるようにしている。指定校受験者選出に関しては、担任意見を参考に可否を決定することが多い。

高：入学金の返金についてはどうお考えか。8割返金するという学校も出てきた。

大：法人にて検討中。薬学部のみ以前は高額であったが、他学部並みに調整した経緯はある。

感 想

分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他

やや硬い雰囲気でのスタートでしたが、時間の経過に伴い、大学・高校それぞれの実情を共有するやり取りが多くあった。後半、特にそういった場面が見られた。互いの立場の理解を深める、貴重な機会となった。会のスタートのための明確なトピックが一つあれば、あとはそこから派生して、どんどん進行していく様子が見てとれた。また、グループの人数・時間とも適切であった。

(5) グループ

報告書担当校 あべの翔学高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 16 日 (火)	開催場所	私学会館 3 F 307 号室
参加校	大学・短期大学：大阪青山大学，大阪歯科大学，大阪体育大学，関西外国語大学， 京都光華女子大学，神戸松蔭大学，千里金蘭大学，奈良芸術短期大学， 桃山学院大学 高校：あべの翔学高等学校，大阪薫英女学院高等学校，相愛高等学校， 太成学院大学高等学校，天王寺学館高等学校，和歌山県立和歌山東高等学校 以上 15 校 15 名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	「多様化する進路指導の現状」 ・入試(特に今年度公募推薦入試)について ・探求授業における高大連携の可能性		
■自己紹介 各大学、高校とも所属、名前、学校概要を1分程度で自己紹介する。 ■公募推薦入試について ・高校側より大学側への質問「公募推薦入試における志望理由書の判定基準、取り扱いについて」 ➤全体評価という扱い。優良も良も評価は一緒だが、ネガティブ表現は特質する。ネガティブでない内容が大事。来年はもう少し厳しくなるかもしれない。関西からの動きが必要だと感じる。 ➤AI 志望理由書も考慮している。点数化はしない。面接資料として活用（受験生の面接内容の一致不一致の確認）し合否には影響しない。各学部において、適さない言葉が書かれていないかどうかは見ている。公募推薦ではむしろ面接を課しており重要視している。一般入試の場合は面接はなかったが、志望理由書を課している。 ➤公募推薦入試は、総合判定することとしており、志望理由書の点数化はしない。ただし相応しく無い内容は見ている（文章力を問うものではない＝文体が整っていなくてもいい）。 ➤以前に AI 志望理由書で書かれたもので、面接では答えられなかったことがあった。入学後に配慮が必要な生徒科どうかを見つける事ができる場合がある。 ➤判定に AI を活用するほどのことではない。 ■配慮の必要な生徒について ・高校側より大学側への質問「入試段階で配慮が必要な生徒への対応について、例えば具体的に求められた配慮などの事例について」 ➤ハンディキャップがある生徒については、事前相談にてできる範囲でサポートする方針を取っている。例えば、別室受験で対応、時間配慮など。			

- 身体的ハンデ（視覚、聴覚など）に対しては、補助できる範囲で支援体制は整えてある。
- ・ 高校側より大学への質問「目に見えないハンディキャップへの対応について」
- ある程度不公平にならないように対応している（他の学生から見ても）。例えば、座席変更や面接の順番変更などはできる（不自然ではない）対応であり可能。
- 個々（外国人・学習障害など）への対応については、可能な限り対応する。物理的に無理なこと以外は対応している。
- 入学後の学生生活において配慮が必要な学生（身体以外に学習障害など）については、できる限り募集活動の中で聞き取りたい。その部分も含めて高大連携(情報共有)していきたい。早めから高大での協力体制の構築をお願いしたい。
- 外国人生徒の入学について、大学としては日本語能力試験N2以上を求る。過去に共通テストで中国語と数学で入学した学生で、日本語が全く話せない学生の入学事例があった。今年からは英語を受験必須と指定するなど対応していく。指定校推薦や留学生や帰国子女にもN2以上を課す予定。

■ 探求授業についての具体例

・ 高校側：大学との事例(現状)

- 入試とのかかわりでは協定校入試の利用が増えてきている。探究授業としてはあまり事例がない。
- 高大連携協定を結ぶ大学が増えてきている。最初の高大連携は入試での活用だった。従来指定校推薦入試で進学していたような生徒が高大連携入試を活用したように感じている。
- 探求授業の「心理学入門」に大学講義を単発利用している。
- 企業との連携を主として探求授業を実施している。例えば、新聞社に来ていただいてインタビューの仕方や新聞の作り方、情報収集の仕方、インタビューの際に言葉を引き出す秘訣など。
- 高校側のビジョンが必要だと認識した。探究授業を通して高校はどんな生徒を育てたいのか、社会に出てどうなって欲しいのかを明確にするべきと感じた。

・ 大学側：高校との好事例(現状)

- いくつかの高校とで実施している。なかなか拡大できない理由として、大学側のリミット(教授の割り当てや日時、大学業務との兼ね合いなど)があり限界にきている。現状はこれ以上なかなか身動きが取れないような状況となっている。入試広報としてはもっと増やしていきたい。
- 業者さんを挟んで単発で依頼がくる場合があるが、それだと高校側と大学側の温度感に差があり、計画や調整難しい。授業へ行った教授が困ることもしばしばある。探究授業に対しての高校側との温度感（ギャップ）があると感じることもある。
- 高大連携は複数校で実施している。現状では、進路探求や模擬授業関連が多く、業者さんを挟まずに高校単体と直接話をして進めることで、互いの意思を確認できギャップはあまりない。
- 複数校で実施している。探求の時間に定期的に関わっている。探求授業に係る場合には、高校側のプロデュース力が必要だと思う。ただ単純に「やりませんか」ではダメだと思うし非常に困る。温

度差が生じる原因だと思う。

- 看護学部で協定を結んでいる高校と実施している。内容としては、ミニオープンキャンパス的な感じでっており、大学としてはこの活動を受験へ繋げたい。
- 大学に高大連携室があり、実態は出張講義や学校見学の受け入れなど、高校側が都合の良いように使ってもらっている。進路指導のさわり部分（進路探求）として行っている。
- 高校側のスタンスで大学としての対応も変わってくると感じている。例えば、大学見学や模擬授業、グループワークの実施に業者さんが入る事もあるが、高校側と直接やりとりする場合には、より具体的かつ目的に適した内容を提供できる。協定校とは特化したカリキュラムを作り、宿泊で実施することもある。
- 現状では、高校 25 校と協定を結んでいる。関係が深い高校だと年に数回同じ教員が出向き授業を展開している。そのまとめとして研究発表の講評まで行っている。大学としては、地域連携として地域の高校に大学の資源や人材を還元していきたいと思っている。教員対象の研修会も可能。

■高校側が進路指導で不安に思っていること、しんどいこと

- 公募推薦への出願自体がそもそも少なくなっている。クラブ強化のために外国からの留学生に教員が1人ついていて、今後の進路指導について不安がある。
- 志望理由書作成の際に、生徒が AI の利用をする場合があるが、そのままの文章を出してくる場合があるので、せめて AI 活用後に自分でまとめたり自分の考えを述べたりして作成してほしいと常々感じている。大学側も AI を活用して作られた文章を AI で判定するのか、判定基準など知りたい。
- 不登校生徒への対応について、声かけなどを行い、高校入学後に改善される場合もある。たまに大学へ入学したとたんにきちんと通い出しており、高校までは不登校と決め込んでいたのではないかと感じてしまうような場合もあった。
- 外国籍の生徒への進路指導の際に、保護者や本人に日本語が通じない場合がある。
- 中学校からではなく、中国やミャンマーから入学相談が直接あったが、今年は結局入学までいかなかった。今後このようなケースが増えて来るのではないかと感じている。

感 想

分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他

司会の先生の議事進行がスムーズだったため、高校側、大学側ともに活発な発言がなされた。それぞれの立場からもしくは学校独自の発言内容からは、高大の理解を深めることに繋がり双方の立場の理解につながる良い機会となった。より意味のある高大連携の必要性に気付かされた時間となった。

(6) グループ

報告書担当校 羽衣学園高等学校

開催日	令和 7年 9月 16日 (火)	開催場所	私学会館 3F 308号室
参加校	大学・短期大学：追手門学院大学，大阪観光大学，大阪樟蔭女子大学，関西外国語大学， 京都光華女子大学，神戸女学院大学，相愛大学，梅花女子大学 高校：大阪青陵高等学校，大阪商業大学高等学校，帝塚山学院泉丘高等学校， 浪速高等学校，羽衣学園高等学校，初芝富田林高等学校，プール学院高等学校 以上 15校 16名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	総合型選抜の概要と評価ポイント、学校推薦型選抜の評価基準・点数化について、高大接 続の好事例や取り組みについて		
●最初に、総合型選抜の概要とそこで何をはかろうとしているのか大学側から話してもらった。 プレゼンテーション、志願理由書、学修計画書、講義参加、レポート、課題、資格、基礎学力試験 など実に多様なスタイルの中で最も多かったのは「面接・対話の重視」で、人物と意欲、大学に対 する理解度の確認など、他に入学後の学力担保や言語・器楽の表現力レベルを確認する例もあった。 <高校から> ・総合型を選択するには1学期時点での進路先確定が必要、絞り込めない生徒もいる。 ・倍率が低くほとんどが合格、一般にはほとんど残っていない。この状況はよくないのではないか。 ・大阪府立高校がますます落ちない入試になって、大学でも通りやすい入試を選んでいるようで専願 も増えている。となると総合型や指定校推薦がかなり大事な入試になる。ミスマッチをどのように 確認しているのか。 <大学から> ・口頭試問や面接、エントリーでしっかりと説明し、他大学の受験の有無も聞いて、何校か参加した うえで比較・選択して欲しいと伝えている。学内の他学部を勧めることもある。 ・興味や関心を確認し、志望理由・学習計画書に基づいてさらに深掘りし、生徒の学習意欲を問うよ うな面接試験を行っている。昨年は2倍くらいの倍率でかなり不合格を出している。 ・どこの学部でもいいというような選択をしている生徒もいるが、実際、入学後は概ねポジティブな 反応で学業に励んでいる。ただしこれは協力的な学生との対話だからかもしれない。 ・かなり高いハードルを設定、文系にも数学の基礎学力試験を導入、2～3倍以上の倍率になってい る。それが一次試験で、二次試験では志願理由から4年間の学修計画を自分の言葉で一貫して表現 できる学生を評価、結果として違和感のない学生が来てくれていると認識している。 ・他に、合格後の特待生や奨学金チャレンジ、入学前友人作りプログラム、入学前講座など、緊張感 を持って入学までを過ごし、達成感や納得感の得られる取り組みの紹介が続いた。			

●ミスマッチはなかなかうまく避けられていると感じたが、面接の基準や点数化などについては明確ではなかったように思える。面接の基準や点数化は高校入試でも実施しているところはある。

学校推薦型に関して、学力を問う推薦書や調査書、小論文など点数化しないとの声があり、その方向で我々は受け止めてよいだろうか、これに関して言質がいただけたらありがたい。

●高校から要望ばかりではなく前向きにつながるという点で、高大接続の取り組みや好事例をお話したい。

<高校から>

- ・大学から連携授業を受けて、探求型プログラムの延長線上で生徒がずいぶん成長して感動した。
- ・併設校との高大接続授業を組み込んで展開、その後大学での単位取得と大学卒業後の進路目標設定につながった生徒もいる。
- ・大学とは教員レベル、個人レベルでのつながりで大学訪問や講義をしてもらう程度。いろいろプログラムの案内がくるが、それは非常にハードルが高くて参加しづらい。もっと気軽に多様な大学と協力できたらいいと思う。
- ・大学側にとって高大接続はやりたいこと、手間はかかるがやる価値があることと思っているのか。
- ・高校も働き方改革というスタンスで、昨年から土曜日に生徒が任意で授業に参加できるようにしている。つてをたどって大学の先生にきてもらって、生徒がオープンで1～3年間受講するというのを継続的に土曜日に実施している。結構準備は大変だが、生徒にはかなり好評である。専門の教授に話してもらう、より興味を持つ、教授のいる大学に興味を持つ、この教授に学びたいと思う、これは学習の本質で高校教育にはできないことも多数含まれていると思う。もう一点、中学時代の問題もあるが、自然科学分野に興味を持たせようと1年時に理系の大学を訪問させている。その過程で文系を選ぶ生徒もいるが、理系を選ぶ者も当然出てくる。理系選択のきっかけを1年時から仕掛ける仕組みを大学の教授にお願いしている。
- ・土曜日に授業ではなく模試や探究活動を行っているが、大学と連携する形ではない。一度、工学部の授業を開いてもらったが、生徒の表情がとてもよかった。続けていきたい。

<大学から>

- ・大学としてはむしろ土曜日の方が有難い。教授のプライベートさえ空いていれば対応は可能、土曜日を歓迎する教授の方が多いのではないかな。

●他に何かあれば <大学から> 指定校離れが起きていると聞いたが実際どうなのか。

<高校から>

- ・総合型の選択肢ができて、そちらに流れていると感じている。
- ・今年は揺り戻した観がある。昨年、私大が難化したイメージで一部の大学以外で倍率があがった。1～2年の受験人口も横ばいの状況から合格が厳しいと思ったのかもしれない。今の1年生から生徒数は減るのでそこで指定校も減るのではないかな。

- ・若干減った。理由は評点の付け方が二極化していることにあるかと。真面目に努力する生徒は高い評点をとるが、そのような生徒は国公立志望などで指定校を考えない。一方で、評点のない生徒は指定校に出せない。
- ・増えている。大学が指定校ラインを下げてきているように思う。決断しやすくなっているのは事実。
- ・この5年スパンでほとんどの大学が視野に入ってくる状況で、一般まで頑張るので指定校は選ばない生徒も増えた。その辺が難しいところかと。
- ・系列校離れの指定校上がりです。
- ・総合型と指定校の併願について、大学側の回答がいろいろで困っている。専願である指定校を選べば他に出願はできないと指導しているが、大学募集要項のどこにもそれは書いてない。一方で説明会に参加して、指定校と総合型の併願ができると生徒は言われてくる。大学に問い合わせ確認するしかないが、高校側基準で指導するにしても、大学がいいというものを高校でダメとは言えない。本校では専願を二つ出すことは基本的にさせないスタンスなので困っている。

<大学から>

- ・エントリーすると出願許可書を与えられて、出願すると専願になる。ただ年に3回総合型入試があって、初回のエントリー許可を3回目までキープできる、いつでも出願できる状況で指定校と合わせて検討できる形である。
- ・今のような質問を受けることは度々ある。本学では、総合型が先、学校推薦型はあとになる。タイミングの合わないケースもあるが、その場合は学校推薦型を優先して欲しいと伝えている。もし指定校で選抜されなかったら総合型で受験してもらって構わない。専願とは、合格したら入学するという条件なので出願までは禁じていない、という理解である。あとは繰り返すが、学校推薦と自己推薦では前者を優先するということ。

<高校から>

- ・今のような状況になるのは二学期の最初の頃で、指定校選考のうちに総合型が始まるということで現場が混乱するのかもしれない。ともかく指定校で合格したら必ず総合型辞退の連絡を入れている。相手側に迷惑をかけるわけにはいかない。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

少人数だったこと、参加者が積極的に意見を出し丁寧な回答があったことで話しやすい雰囲気ができた。総合型、学校推薦型と多様な入試スタイルに普段現場は必死で向き合っているが、高校側だけではなく大学側も「生徒に応じて実に多様な投げかけを行い、それにレスポンスできる学生」を求めていると感じた。何が最適解かわからないが、一人ひとりに真摯に向き合う関係者、教員の思いや本音を聞いて、新たな改善点や取り組みのヒントをもらえたと思う。大変有意義な時間となった。

(7) グループ

報告書担当校 関西福祉科学大学高等学校

開催日	令和 7年 9月 16日 (火)	開催場所	私学会館 3F 309号室
参加校	大学・短期大学：大阪キリスト教短期大学，大阪樟蔭女子大学，大阪商業大学， 大阪電気通信大学，京都産業大学，神戸常盤大学，園田学園大学， 桃山学院大学 高校：関西創価高等学校，関西福祉科学大学高等学校，梅花高等学校，阪南大学高等学校， 八洲学園高等学校 以上 13校 13名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	公募制推薦時の志望理由書等の扱いについて 総合型選抜について など		
■ 公募制推薦時の志望理由書等の扱いについて 〈大学〉 ➤ 志望理由書の提出は求めない。その他の様々な状況（調査書等）で合否を出していく。次年度に関しては検討中。変更する可能性あり。 ➤ 公募では書類の提出を求めない。面接を課しているので、そこで判断していく。 ➤ 志望理由書の提出は求めるが、点数化はせず、総合的な判断になる。 ➤ 200字～300字程度「高校時にがんばったこと」など書きやすいテーマに設定する。点数化はしない。よっぽどひどい内容（不適切な内容）以外はとくに問題ないようにする。 〈高校〉 ➤ 生徒が混乱しないよう情報発信を丁寧にしていただければありがたい。 ➤ 併願の出願において志望理由書を書かせるのは難しい。専願制にしたらいいいのでは。 ➤ 学部研究学科研究までされると少ししんどいな（厳しいな）と思う。自己アピール文を書くくらいならば書けると思う。 ■ 生成A Iで書かれた文章に対してはどのように対応されるのか？ 〈高校→大学〉 ➤ とくに決まりはない。教師に添削された文章（業者が入っている文章）は、その生徒の文章と言えるのだろうか、というのはある。 ➤ 生成A Iについてのチェックについては、面接で確認をするようにしている。 ➤ ルーブリックは用意している。学部学科で採点基準はある。面接との整合性は気にしている。 ➤ 生成A Iは活用する時代になりつつあるので、ライブ（生）で見る面接等に時間をかけて見ていく学部学科が増えている。事前に準備できるものは減ってきている。生成A Iを使わ			

せないのではなく、活用しなさいという試験が出てくるかもしれない。

- 年内入試と年越し入試との比率について。年内入試ではあまり合格者を出したくない高校の先生が多い中で、その比率についてはどのように決めているのか。〈高校→大学〉
 - 比率については入学センター主導でいっている。徐々に学部学科の意向は聞いているが。基本は学力を問う年越し入試になっている。
 - 数年の動きを見て設定している。年明け入試は最後まで学習をしているが、年内入試（専願制）で受験してくる層を落としてまで年越し入試の生徒を増やすことは難しい。
 - 合格者＝入学者ではない。年内で決まった子が入学する子が増えているのが現状。年越し入試は受験してくれている、合格者も出ている。ただ、入学するのは年内入試の子になっているので、余計に年内のイメージが定着している。
 - 年越し入試は若干名になっている。
 - 年内入試の子が増えている。今年も増やした。学部学科によって動きが違う。早期に決まった子に対しては奨学金のかかる一般入試などで勉強を続けさせようとしている。
 - 学部学科によって状況が違うものの、基本的には年内入試がほとんどになっている。学部によっては専門学校との取り合いになるので、早期にならざるをえない。早く確保したいという思いと、最後まで勉強をした子がほしい学部の思いが入り乱れる。年内が増えている。
 - 7：3くらいの募集定員になっているが、ほとんどが年内で決まる。早期に決まった子に対して、奨学金の入試をうながしたり、検定の受験をうながしたりしている。
 - どちらも来ていただけるのがありがたい。年内の入試はエンゲージメントが高い子が多い。一定の評価はできる。
- 通信制の学校の悩み。学力がバラバラである。いわゆるグレーゾーンの子、などについて調査書に書いた方がいいのか？どこまでオープンにして書くのがいいのか？〈高校→大学〉
 - 書いてもらえた方がいい。蓋を開けて知らなかったは大変。書いてもらえる方がありがたい。入学後に発覚して対応するのは大変だから。入試について配慮ができる。
 - 修学上の配慮も含めて相談を受けます。
- 総合型選抜の対応は専願制が基本だと思うのだが、併願制が増えているのはなぜだろうか。〈高校→大学〉
 - 併願可にはしているが、専願に近い子がくるだろうと考えているところがある。
 - 青田買いになりつつある状況で、かなり早期に専願にすると問題だという文科省の通達があったのでは。今とは違う状況で A0 が生まれたはずなのに、いつの間にか早期確保の入試になった。A0 と総合型選抜はまったく違うものになっている。受験産業の一つになっている。
 - 世の中の流れがあるので再検討しなければならないと感じている。
- 今後、入学金の返金はするのかどうか。〈高校→大学〉

➤ 議論はしているが、経営の問題もある。現在はお答えできない。 ➤ 歩留まりの問題はあるが、これで受験生が増えてくれたらいいなとも考えている。 ➤ おそらく規模の大きな大学が流れをつくるかもしれない。 ■ 志望理由書について〈大学→高校〉 ➤ 統一してほしい等。自己推薦書にする。字数を決めるなど。 ➤ 今年のやり方でよかったのかとさぐっている。 ■ まとめ	
感 想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
雰囲気は非常に和やかで、丁寧な議論ができた。公募制推薦時における志望理由書の扱いについては高校大学ともに関心が高く、多くの時間が割かれた。会は高校側から大学側への質問で進んだが、大学側からの質問もいくつかあった。 今後の参考となる意見も多く、大変有意義な時間であった。	

(8) グループ

報告書担当校 大阪商業大学堺高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 1 6 日 (火)	開催場所	私学会館 4 F 4 0 1 号室
参加校	大学・短期大学：藍野大学短期大学部，大阪常磐会大学・大阪常磐会大学短期大学部， 大手前大学，関西福祉科学大学・関西女子短期大学，神戸常盤大学， 四條畷学園大学・四條畷学園短期大学，阪南大学，森ノ宮医療大学 高校：追手門学院大手前高等学校，大阪暁光高等学校，大阪商業大学堺高等学校， 金蘭千里高等学校，向陽台高等学校，帝塚山学院高等学校 以上 1 4 校 1 4 名参加		
時 程	1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0		
内 容	高等学校のアンケート、大学・短期大学様のアンケートに基づき、基調講演を参考にしながら、それぞれの課題を知り、共に協力しての解決について話し合います。高校と大学の連携について話し合いました。		
○自己紹介 高校側 ・入試の壁を越えた話が出てきたのが衝撃、入試の壁が進路の中心。 ・指定校推薦でもミスマッチが起こっている。 ・大学2年生から就職活動が始まっており、高校から対応する必要がある。 ・年内入試が増えて、指導する教員の数足りない、総合型選抜を複数受験する生徒が見られる。 大学側 ・ミスマッチを防ぐためにも高校の探究と結びつけられたいと思う。 ・高大連携を結んだが、カリキュラムの連携までは取れていない。 ・提携高校への出前授業に加えて何かをしたい。ただ、大学の先生の都合を空ける必要がある。 授業体験も実施している。 ・大学入試の早期化、2年末に内々定、年内入試で入学性を確保しているが、他校が早々に内々定を出している状況に対してどう対応していくか。協定を結んでいるが出前授業などを常にできるわけではない。 ・ミスマッチを防ぐため、高大連携で授業をしているが、フィードバックは現在できていない。 ・系列高校と7年一貫教育を始めている。他校にも広げたいがすべてが進路でというわけではない。入試の変化が大きい。 ・探究型の授業で高大接続で課題の設定や振り返りで大学の教員をお借りしたいという要望が増えている。併願校がだいぶ減っている。良い教育の提供を目指している。			

- ・ 高大接続で模擬授業、来校対応している。連携の中で入試の受験料、入学金減免が受験生に響くのかどうか。

○連携の中で入試の受験料、入学金減免が受験生に響くのかどうか。（大学側から高校側）

- ・ あまり関係ない。行きたいところをしっかりと考えている。副次的な効果。
- ・ 保護者と相談している場合が多く、減免制度では決めていない。
- ・ 家計状況が厳しい生徒は減免制度に敏感である。
- ・ お金が無いと言う保護者を説得する。
- ・ 受験料で併願し放題などは生徒にも響く。

○総合的に判断するの取り扱い（特に志望理由書の取り扱い）。（高校側から大学側）

- ・ 志望理由書は面接の参考資料。志望理由書に1行だけ書いた生徒は不合格にした。
- ・ 点数化はしない。面接時の参考資料にしている。面接での内容と志望理由書の内容が違くと当然点数に反映される。
- ・ 点数化はしない。志望理由書よりも学力試験がウェイトを占める。
- ・ 志望理由書と調査書とで点数化する。志望理由書は面接にかかわっている。
- ・ 志望理由書は全体の1割入れている。
- ・ AI で書いてきた文章の取り扱いが今後の課題か。

○探究型授業で出張講義の提案に対してどうされるのか、提案する場合はどういう先生にどうやって連絡を取ればよいのか。（大学側から高校側）

- ・ 探究担当の部署に直接連絡してほしい。
- ・ 進路担当から進路部長に連絡している。
- ・ 探究担当に情報を渡している。

校内ガイダンスの案内が業者からくるとき、SDGs や産学連携の話をしてほしいという要望が来るが、高校側から出しているのか、業者が出しているのか。（大学側から高校側）

- ・ 高校側から細かな要望を出すことはしていないと思う。

生徒たちの学びの意欲を高めていく工夫があれば教えてほしい。（高校、大学双方）

- ・ オープンキャンパスに行くとやる気は出る。
- ・ 実際に見ることが意欲を高めるために重要だと考える。
- ・ 教員への研修を通して、教員一丸となって学習意欲を高めようとしている。

- ・生徒個人にあった授業スタイルを用意すると意欲が上がる。
- ・探究活動の意欲が高まるのは、大人が本気になって話をしている時。総合型選抜にも結びついて
いる。
- ・大学の先生は案外怖くないと思ってもらえれば良いつながりになる。
- ・高校生が来た時に、教員ではなく在学生に喋ってもらう。自己肯定感が低いので、場数を踏まし
て自己肯定感を高める。
- ・高校生にどのような授業を受けたいかアンケートをしてから模擬授業を行っている。在校生に話
してもらうとやる気の向上に繋がっている。
- ・高校生自身が考える事前指導をしてもうらとキャンパス見学が遠足気分にならない。
- ・探究活動を支援したが、大学教員が驚くぐらいやる気があった。
- ・新しいことにチャレンジすることが意欲につながる。
- ・学生主体のオープンキャンパスで、学生のリアルな声が高校生に伝わっている。
- ・対面で話をすることが重要である。

感 想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
-----	--------------------------------

双方から質問が出てきて、終始穏やかな雰囲気で話し合いが行われた。

(9) グループ

報告書担当校 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 1 6 日 (火)	開催場所	私学会館 4 F 講堂 (後)
参加校	大学・短期大学：大阪経済法科大学，大阪女学院大学・大阪女学院短期大学， 大阪保健医療大学，畿央大学，京都西山短期大学，神戸薬科大学， 宝塚大学，東大阪大学・東大阪大学短期大学部，龍谷大学 高校：大阪立命館高等学校，帝塚山学院泉ヶ丘高等学校，常翔学園高等学校， 東海大学付属大阪仰星高等学校，金光大阪高等学校，YMCA 学院高等学校， 東大谷高等学校 以上 1 6 校 1 6 名参加		
時 程	1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0		
内 容	討議・情報交換の場合 …… テーマ 年内入試について諸々		
■自己紹介 *各校名と名前だけの紹介 ■進行内容 1. 生徒が出してきた自己推薦文について、どのように評価しているか？ ☒ 総合型の自己推薦書は得点化。志望理由書は確認のみで、入学後に活用。 ☒ 公募制前期は推薦書不要。後期も推薦書そのものは面接等で活用。また、入学後に活用。 ☒ 広報担当のため、わからない。 ☒ 総合型のときに面接で活用。面接以外では、入学後の活用。 ☒ 留学生が多くなってきたので、大丈夫かの確認。 ☒ 入試制度によって違う。総合型は志望理由書。公募は推薦書。 ☒ 推薦書は学校推薦型。総合型は口頭試問と面接。 ☒ 志望理由書は得点化しないが、スポーツ推薦は得点化。面接のときに確認する。推薦書は公募 ☒ 事前課題という位置づけ。 2. 一般選抜で入ってくる生徒のレベルは高いと思うが、入試制度によって入学前課題等あるか？ ☒ 入学前教育は全入試同一内容を課している。 ☒ 総合型での合格者は入学前に月に 1 回登校日。公募・指定校は問題ない。 ☒ 年内専願の生徒は目的意識が高い。高大連携室を作って、高校に訪問したりしようと思っている。 ☒ 専願の生徒はe-ラーニング。入学前教育から入学直後、高等教育へのスムーズさを重視。			

3. どのような生徒が入学後にGPAが伸びる？

- ☒ 看護師になりたいという意欲の高さ。
- ☒ 自分で準備する力が高校時代にあれば、（入試の準備も含めて）安心。
- ☒ 年内入試組において、単科系大学は意欲が高い。総合大学はGPAが低い。
- ☒ 高校側から見ても、早めに決まった生徒は呼んでほしい。
- ☒ 課題の進捗状況がどうなのかの確認が必要。e-ラーニングの課題を課していてもこなしていないことがある。

4. 法人を越えて他校とつながっている？

- ☒ 校務員ガイダンスを高校生にやっている。
- ☒ 大学の付属だが、1割程度。

5. 新規で出前授業などの講演会のニーズはある？

- ☒ 学校によるが、本校は決まっていないので突発的に決まる。
- ☒ 業者に丸投げ。

6. 入学しない生徒の入学金や授業料の返金について

- ☒ 特になにも決まっていない。
- ☒ まだ考え中のため、何も言えない。

7. 生成A I の使い方は？

- ☒ ツールとして利用している。
- ☒ 志望理由書などを書く際に使っても、面接等でわかるので大丈夫。
- ☒ 大学内でも精度の高いレベルで使ってきている。
- ☒ 大人数の授業で見極めるのは不可能。学生にはダメと言っているが。
- ☒ 授業の内容を聞いていないと書けないレポートにしている。
- ☒ 賢い大学ほど見分けにくい。

7. 推薦書、アドミッションポリシー3つを書くのは無理？

- ☒ チェックボックス方式が楽。
- ☒ チェックボックスにしてほしい。
- ☒ 現場の先生としては、推薦書を書くことが果たして意味があるのか。

8. 高校でキャリア教育はどのようなことをしている？ ☒ 中高一貫校なので、中学の間に様々な体験をさせている。高校だけでは時間が足りない。 ☒ 授業をつぶしてキャリア教育をしている。疑似投票などもやっている。	
感 想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
序盤は司会が指名しながらの発言が多かったが、時間が経つにつれ、活発に意見交換ができた。 入試に関しては、不透明かつ変化の多いものなので、常に情報へのアンテナを立てておく必要があると痛感した。	

(10) グループ

報告書担当校 四條畷学園高等学校

開催日	令和 7 年 9 月 16 日 (火)	開催場所	私学会館 4 F 講堂 (前)
参加校	大学・短期大学：大阪経済法科大学，大阪夕陽丘学園短期大学，畿央大学，京都文教大学， 太成学院大学，帝塚山大学，長浜バイオ大学、 東大阪大学・東大阪大学短期大学部 高校：大阪緑涼高等学校，四條畷学園高等学校，アサンプション国際高等学校， 大阪女学院高等学校，近畿大学付属高等学校，神須学園高等学校，星翔高等学校， 清教学園高等学校 以上 16 校 16 名参加		
時 程	15：30～17：00		
内 容	公募推薦入試の変更点について …… 推薦書や志望理由書等の提出書類について		
「今年度の年内入試について」 ・多くの大学で変更なし。 ・総合型・公募推薦共に推薦書は不要（変更点はないが、志望理由書 200 文字は従来通り）。 ・公募推薦の一部日程を総合型にしており、その他志望理由書が必要な入試では点数化しない。 ・志望理由書の提出を紙ベースのところと web 化しているところがある。 「次年度以降の年内入試について」 ・現状では志望理由書の点数化を考えていないところが多い（評価基準が難しいため）。 ・一部点数化を考えているところもある。 ・総合型で点数化しているところでは、文字数、アドミッションポリシーについての記載、誤字脱字、内容を確認している。 ・志望理由書に重きを置いているところもある。 ・AI 機能を使っている高校生もいるが、大学側からすると、提出書類についてはうまく活用するようにと。点数化するものは試験当日に記入させる（小論文）。 ・生成 AI をうまく使った入試制度を思案中のところがある。 ・危うい AI もあるので注意喚起の必要がある。 ・入試が早期化し、入学する学生の質が変わってくると考えられる。 「総合型、指定校、協定校入試について」 ・総合型タイプと指定校タイプがある ・指定校の日程で実施（総合型タイプと指定校タイプで試験内容が異なり、受験生が選択できる） ・総合型を勧めるところもある（専門学校を意識している）。 ・指定校での出願が減り、総合型での受験が増加傾向にある。			

※大学側から高校側へ「総合型か指定校かのどちらを勧めているのか」

- ・費用面によって判断する。
- ・総合型は合格するかどうか分からないが、指定校はほぼ合格すると認識。
- ・指定校、総合型のいずれかを勧めている高校があれば、公募や一般といった学力での合格を得られる入試を勧める高校もある。
- ・期間を決めて指定校の希望を聞いている。
- ・指定校は専願であり、学校の代表ということで責任を持って志願することを意識させている。
- ・高校からすると生徒たちの進路保障が必要。

※高校側から大学側へ「要望」

- ・募集要項に専願か併願かはっきりと示してほしい（入学を強く志望する者、本学を第一志望とする者は専願と判断しにくい）
- ・入学前教育の充実を図ってほしい（高校卒業までの学力担保のため）。

感 想

分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他

分散会では、毎回のように意見が飛び交うよい機会である。司会は大変であるが、進行を担う重要な役割であると感じる。各高校の進学実績にもよるが、高専の情報交換会も実施できると喜ばれるかもしれない。今後も高大短が意見交換できる機会が増えるといいのではないだろうか

④

高大連携情報交換会の歩みと今後の取り組み

大阪私立高等学校進路指導研究会

■設立目的と趣旨（2013 年 4 月実施の高大連携情報交換会資料より引用）

大学入試の多様化、少子化などの影響もあり、高等学校現場にも大学現場にも混乱が生じていることは少なくない。様々な問題解決に繋げるために高等学校側と大学側で意志疎通・情報交換をする場を設けたい。

■設立に至った理由と経緯（2013 年 4 月実施の高大連携情報交換会資料より引用）

進学問題事象の発生時の対応として、大阪府専修学校各種学校連合会(大専各)所属の専修学校については、大専各を通じて改善の要望を高等学校側から出すことはできている。また、年間 2 回の進学研究会が大専各と大阪三者協(大阪府立・大阪市立・大阪私学)が開かれており、意見交換をしている。大専各に加盟していない専門学校に対しても大阪府私学大学課より指導していただくことは可能である。

しかし、大学や短大については、大専各と同じような組織がなく、大阪コンソーシアム・南大阪コンソーシアムなど別目的の組織でしか窓口がなかった。2009 年 6 月より関西 11 大学入試広報研究会との話し合いは年 1 回できるようになってきているが、大阪三者協の一部としての参加であり、大阪私学としての意見が全て伝わるものではなかった。ただ、11 大学のみでの会合であり、他の大学や短大にまで意見が伝わる場ではない。

(注) 関西 11 大学との意見交換に関しては、現在まで計 4 回行っており、成果が見えている部分もある。

こういう状況の解決に向けて、大阪府私学進路指導研究会として大学や短大にアプローチしていく場を設けることを検討していた。色々な業者に仲介役をお願いしていたが、2009 年 8 月よりベネッセグループ(ベネッセ大阪事業所様と進研アド様)によって、意見交換の場を設ける方向でお手伝いいただけるようになった。これまで、大学・短大側も高等学校の現場の意見を聞きたいという要望は多くあり、その契機としたいということであった。

■設立までの経過

年 月	内 容
2009 年 9 月	私進研役員会にて「情報交換会」の立ち上げについて議論
12 月	私進研第 2 回総会にて、「情報交換会」の立ち上げについての説明。 ※設立の趣旨などについて説明
2010 年 3 月	私進研第 3 回総会にて、「情報交換会」の立ち上げに向けた状況報告 ※「会の立ち上げに向けての課題をつめている段階である」という説明
9 月	9 名の大学・短大入試担当者と役員による会議 ※設立趣旨の説明をさせていただき、ご意見をいただいた。 ※1 学期は、私進研の事務局体制の正式決定後から活動し始めた
12 月	私進研第 2 回研修会にて「高等学校が改善してほしい点」について意見交換 ※9 名の大学・短大の入試広報担当者の方と高校の先生方でグループ討議を行った
2011 年 3 月	私進研第 3 回総会にて「高等学校が改善してほしい点(要望)」の内容決定 ※20 名の大学・短大の入試広報担当者の方と高校の先生方でグループ討議を行った
4 月	「入試に関する要望点のご説明会」を開催 (会場) 金蘭会高等学校 ※高大連携情報交換会の設立趣旨を参加大学・短大へ説明 ☆参加状況 《大学・短大》69 校 72 名

■ 高大連携情報交換会としての活動の経過

年 月	内 容
2011 年 10 月	「高大接続に関する合同分科会」の開催（会場）開明高等学校 [分科会テーマ] A：キャリア教育について（入学前教育含む） B：高校への情報提供について①（入試制度や入試結果報告の仕方） C：高校への情報提供について② （教学、学生支援、就職等について必要な情報とその提供方法） ☆参加状況 《大学・短大》67 校 75 名 《高等学校》役員を中心に 16 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、合同分科会の報告
2012 年 3 月	私進研第 3 回総会にて、「2012 年 4 月高大連携情報交換会」に向けたアンケート依頼 「進路指導に関するアンケート」を実施
4 月	高大連携情報交換会の開催（会場）私学会館 第 1 部 報告 ○合同分科会の報告 ○情報誌アンケート・WEB アンケート・進路アンケートの報告 第 2 部 分科会形式で意見交換会 テーマ「業者を利用したガイダンスについて」「入学前教育について」 ☆参加状況 《大学・短大》83 校 90 名 《高等学校教員》44 校 49 名
5 月	私進研第 1 回総会にて、高大連携情報交換会の報告
10 月	高大連携情報交換会の合同分科会の開催（会場）私学会館 第 1 部 ○大学・短大の皆様への事前アンケートについての趣旨説明と結果報告 ・専願 or 併願の入試ガイドや要項での明記は？ ・手続き締切日の明記は？ ・調査書の発行時期に関して ・指定校推薦依頼書の内容に関して ・高等学校への合否通知に関して ○研修会/意見交換会を分科会形式で実施 テーマ「大学へのアンケート結果、入試制度について」 第 2 部 第 1 部での意見のまとめ報告 ☆参加状況 《大学・短大》81 校 90 名 《高等学校教員》48 校 51 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、合同分科会の報告 ⇒その後の研修会にて、高等学校のグループ別に意見交換 ①指定校推薦依頼書（あるいは、「依頼内容のまとめ」）として入れて いただきたい項目について ②2013 年度の「大学・短大への要望書(案)」についての意見交換 ③入学前教育について ・各高校での対応方法について（情報交換） ・大学、短大への要望
2013 年 3 月	私進研第 3 回総会にて、2013 年度版「高等学校側が大学・短大へ改善していただきたい点」 についての要望内容の決定

2013 年 4 月	高大連携情報交換会の開催（会場）私学会館 第 1 部：大阪私進研から大学・短期大学の皆様へ ① 2012 年度活動報告 ② 「2013 年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 ③ 今後の方向性について 第 2 部：情報交換会・名刺交換会 テーマ「今後の高大連携情報交換会のさらなる発展に向けて」 ～どういった内容のことが実施したいか～ ～意見交換したい内容について～ など 《大学・短大》 ・呼びかけ対象：近畿 2 府 4 県の私大短大 147 校 ・参加数：93 校/101 名（参加率 63%） ☆参加状況 《大学・短大》93 校 101 名 《高等学校教員》55 校 60 名
5 月	私進研第 1 回総会にて、高大連携情報交換会の報告
10 月	高大連携情報交換会の合同分科会の開催（会場）私学会館 ※時間を有効活用するため、分科会のみ実施 ○テーマ 1：高校から大学短大への要望の確認会 高校へのアンケートで「強く要望したい」かつ「改善されていない」とされた下記の項目について大学短大の進捗状況を確認 1. 入試制度について ①調査書の発行枚数をわかりやすく記載いただきたい。 ②調査書の発行時期は高等学校の状況をふまえて早くなりすぎないようにしていただきたい。 2. AO 制度について 8 月中旬に合格の内定が出ることをないように心がけていただきたい。 3. 合否通知・合格数の把握について 一般入試についても、個人の合否・成績の開示は不可能であったとしても、合格数はお知らせいただきたい。 ○テーマ 2：情報の共有について 1. 成績不振者への対応、出席状況・単位修得状況《特に AO・指定校による入学者》、資格取得状況、就職状況 2. 大学見学について（オープンキャンパスではなく、通常時期の訪問） ○テーマ 3：不本意入学者対応について 1. 入学前～初年次にかけての対応について 2. 上位者と下位者に対する対応について ○テーマ 4：輩出すべき人物像について 1. アドミッションポリシー：入試制度・入試問題について 2. 企業の求める人材の把握について（把握の方法と生徒・学生への周知方法） ☆参加状況 《大学・短大》73 校 77 名 《高等学校教員》47 校 51 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、高大連携情報交換会の報告

2014 年 4 月	高大連携情報交換会の合同分科会の開催（会場）常翔学園高等学校 プレ会：初めて参加される皆様へ a. 高大連携情報交換会の目的について b. 大阪私進研からの要望の内容について c. これまでの高大連携情報交換会での取り組みについて 1. 全体会 a. 近進協から各大学・短大への依頼内容についての説明 b. 大阪私進研からの要望について c. 本日の分科会についての説明 2. 分科会 ○共通テーマ 大阪私進研からの特に強い要望についての、大学の対応状況の確認 ○分科会別テーマ 分科会① 大学見学・模擬授業や個別相談会のあるべき姿について <論点整理> 高校にとっての本当の狙いとは何か。大学・短大側と本音で語れていないのではないか。 分科会② インターネット出願について <論点整理> メリットとデメリットの整理。 分科会③ 入学前教育について <論点整理> 入学前教育の意義目的が高校側と大学・短大側で共通認識されていないのではないか 分科会④ 課業日に当たらない入試日程設定について <論点整理> 大学・短大の受験に関連している各種日程の設定をする際、どこまで高校側の課業日を考慮すればいいのか。 3. 名刺交換会 ☆参加状況 《大学・短大》76 校 81 名 《高等学校教員》40 校 54 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2015 年 3 月	高大連携情報交換会の合同分科会の開催（会場）常翔学園高等学校 ※的場先生によるこれまでの高大連携情報交換会の取り組みについての中間総括 第 1 部 全体会 ・設立目的の再確認 ・高校からの要望について ・これまでに行った会についての振り返り ・事前アンケート結果について 今後の高大連携情報交換会に向けて ・課題点の整理 ・皆様をお願いしたいこと 第 2 部 名刺交換会（情報交換会） ☆参加状況 《大学・短大》68 校 73 名 《高等学校教員》31 校 41 名
5 月	私進研第 1 回総会にて、高大連携情報交換会の報告

10 月	高大連携情報交換会の合同分科会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 ・会長挨拶、事務局長説明 ・基調講演 「大学入試改革の方向性とその影響」 講師：原 茂様 役職：教育情報センター 部長 第二部 分散会 分科会共通テーマ 「今後求められていく力を高校生にどう伝えるのか」 大学と高校の現場で起きている、いわゆる学力問題をキーワードにしながら 2020年度に予定されている入試改革を前提として、高校生に大学毎の違いをどう理解させるのか。今日は入試制度に絞って双方の立場で意見交換、情報交換を行いたいと考えています。 ・名刺交換会（情報交換会） ☆参加状況 《大学・短大》70校73名 《高等学校教員》51校56名
12 月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2016 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 - 会長挨拶 - 事務局長挨拶、説明 ・「2015年度活動報告」 ・「2016年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 ・今後の方向性について - 第2部：分散会にむけて - 名刺交換会（情報交換会） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①AO入試、推薦入試のあり方について 入試制度改革により英語外部試験活用の動きがひろがり、センター試験に代わる新しいテストの実施が日に日に近づく状況下で、AO入試、推薦入試のあり方について、大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ②学生（生徒）の中退問題 中退の原因は経済的理由、人間関係、不本意入学などさまざまあるが、大学、高校双方の学生（生徒）の中退状況、それに対する防止策について意見交換、情報交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》68校75名 《高等学校教員》46校50名
12 月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2017 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 - 会長挨拶 - 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2017年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 - 入試改革・新テストの現状について - 名刺交換会（情報交換会）

	第二部 分散会 分散会共通テーマ ①新しい制度（新テスト、指定校、A0 入試、推薦入試）のあり方について 入試制度改革により外部英語検定試験活用の動きがひろがり、センター試験に代わる新しいテストの実施が日に日に近づく状況下で、指定校、A0入試、推薦入試のあり方について、大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ②現在の学生（生徒）について（中退等について） 現在の学生（生徒）の資質について。経済的理由、人間関係、不本意入学などさまざまなあるが、大学、高校双方の学生（生徒）の中退状況、それに対する防止策について意見交換、情報交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》82 校 74 名 《高等学校教員》60 校 67 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2018 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2018 年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「大学入学共通テスト」の実施等に向けた大学入試センターの取り組みについて d. 名刺交換会（情報交換会） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①入試改革について 入学定員厳格化や大学入試英語成績提供システム等で受験生には、さまざまな混乱が考えられます。共通テストの実施が日に日に近づく状況下で、大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ②調査書について JAPAN e-Portfolio の活用・評価基準、A0 入試・推薦入試等の調査書のあり方について、大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見・情報交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》71 校 82 名 《高等学校教員》71 校 79 名
12 月	私進研第 2 回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2019 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2019 年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「現行入試と新入試に向けての動向について」 d. 名刺交換会（各分散会会場にて情報交換） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①現行制度最後の年を迎えて 入学定員厳格化や安全志向等の影響で、今年度もさまざまな混乱が考えられます。大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ②入試改革について 大学入試英語成績提供システム、JAPAN e-Portfolio の活用・評価基準、調査書のあり方、出願時期等、大学側、高校側ともにそれぞれ不安を抱えている中で、情

	報を共有し、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》73校75名 《高等学校教員》83校91名
12月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2020年9月	高大連携情報交換会の合同分散会を中止（新型コロナウイルス感染拡大による） 第一部 全体会（オンライン実施） a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2020年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「新入試初年度の動向と来年度以降の入試について」 第二部 分散会に代わり、質問事項についての回答集を作成 ☆参加状況 《大学・短大》70校65名 《高等学校教員》66校69名
12月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2021年9月	高大連携情報交換会の合同分散会を中止（新型コロナウイルス感染拡大による） 第一部 全体会（オンライン実施） a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2020年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「新入試初年度の動向と来年度以降の入試について」 第二部 分散会に代わり、質問事項についての回答集を作成 ☆参加状況 《大学・短大》57校65名 《高等学校教員》63校67名
12月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2022年9月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2022年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「現行入試と新入試に向けての動向について」 d. 名刺交換会（各分散会会場にて情報交換） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①指定校推薦・総合型選抜における多様な入試について 現在、指定校推薦・総合型選抜において様々な形で入試が行われています。高等学校側、大学・短期大学側双方が多様な入試に対応するために苦勞していると思います。大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》66校64名 《高等学校教員》60校66名
12月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告

2023 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2023年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「今後の入試展望と総合型選抜について」 d. 名刺交換会（各分散会会場にて情報交換） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①総合型選抜など、多様化する入試の今後について 現在、総合型選抜をはじめ、多様な入試形態が存在します。高等学校側、大学・短期大学側双方が多様な入試に対してどのような実感を持っているのか。また、それぞれの入試に対応するための苦労など、実情の把握も必要です。大学側と高校側双方の本音をぶつけ合い、受験生にとってより良い入試となるべく意見交換を行いたいと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》71校 78名 《高等学校教員》64校 70名
12 月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2024 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長挨拶 b. 事務局長挨拶 ・本日の説明 ・「2024年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 「これからの高大接続を考える」 d. 名刺交換会（各分散会会場にて情報交換） 第二部 分散会 分散会共通テーマ ①新教育課程における高大接続の在り方 現在、総合型選抜はじめ様々な形で入試が行われています。高等学校側、大学・短期大学側双方の立場で多様な入試の現状を確認し、大学側と高校側双方の本音を語り合いながら、意見交換を行いたいと思います。また、今回の情報交換が受験生にとってより良い入試に繋がればと考えています。 ☆参加状況 《大学・短大》75校 88名 《高等学校教員》68校 77名
12 月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告
2025 年 9 月	高大連携情報交換会の合同分散会の開催（会場）大阪私学会館 第一部 全体会 a. 会長・私学課参事挨拶 b. 事務局長説明 ・本日の説明 ・「2025年度版 大学・短大へ改善していただきたい点」についての説明 c. 基調講演 「『選抜』から『エンゲージメント』へ ～入試の“壁”を越えた教育的連携の可能性～」 講師 進研アド大阪支社 支社長 新井 千晶 様 d. 名刺交換会（各分散会会場にて情報交換）

	第二部 分散会 分散会内容 高等学校のアンケート、大学・短期大学様のアンケートに基づき、基調講演を参考にしながら、それぞれの課題を知り、共に協力しての解決について話し合います。 ☆参加状況 《大学・短大》75校85名 《高等学校教員》65校72名
12月	私進研第2回総会にて、高大連携情報交換会の報告

■今後に向けて

(1) 実施アンケートの結果について

実施内容に関しては、昨年度と同様におおむね満足していただいた数値が確認できました。「大変良かった」、「良かった」の合計が「全体を通しての感想について」では98.2%（昨年98.7%）、「全体会・基調講演」では85.5%（昨年84.2%）、「分散会」では94.6%（昨年92.1%）という結果でした。

次年度も対面での分散会を実施する予定ですが、毎年アンケートにみられるもう少し時間があればとか、2部制にすればもっと多くの学校と交流できるのではとか、大学・高校のグループ分けが工夫できないかといった様々な貴重なお声を頂戴しました。

さらなる工夫を今後も役員会で検討していきますので、忌憚ないご意見を今後もお寄せいただければ幸いに存じます。

(2) 今後の開催について

すでに当日会場でご案内させていただきましたが、次年度につきましては9月15日（火）に実施を予定しております。

大学・短大と高校の間で少しでも多くの情報を共有し、生徒たちの指導に活かせる機会にしていきたいと考えておりますので、引き続き宜しくお願いいたします。

⑤

《改訂版》 高等学校から大学・短期大学への要望 ～改善していただきたい点～

大阪私立高等学校進路指導研究会より
令和7年9月16日

☆入試全般について

① 要項等に明記していただきたい事項

- 「専願・併願可」、「現役・浪人可」、「対象となる課程・科」
- 「合格発表日」・「追加合格の発表日や通知方法」
- 「調査書の発行枚数」※受験日程・制度によって各大学の扱いが異なる。
- 「前期授業料等諸費の猶予期間、相談できる場合の具体的な方法など」
- 「就学場所（キャンパスの所在地）」
- 「前年との変更点」

② 手続き上のお願したい事項

- 振込み手続きが複雑にならないこと。
- 入学手続きの納入金振込期限の延長。
- 前期授業料等（入学金を除くもの）の年度末あるいは入学後の納付。
- 入学確定者に対する卒業証明書・最終調査書の発行。※3月1日以降の提出にしてほしい。
- 既卒者の対応。※学校教育法施行規則第二十八条第二項より、卒業後5年を超えた受験生については、成績や出欠に関する証明書は発行できないので、当該の生徒についての証明書の提出を求める場合には、「卒業証明書のみでよい」、「調査書が発行できない旨の証明書」などと必要とされる書類を選定していただきたい。
- 活動報告書等が必要な場合は、紙媒体と電子媒体の両方を認めていただきたい。

③ 追加合格の対応

- 生徒に経済的な不利益が生じないような配慮。
- 追加合格者があれば、どこに合格したかという情報を4月末までに教えてほしい。

④ 入試全体について

- 人権に配慮した面接。
- オンラインでの面接や入試を実施する場合の日程や環境などへの配慮。
- 安易な受験科目数を削減。※特に入学後に必要になる科目への配慮（残してほしい）。
- 選択科目の平均点の差によって得点調整が行われる場合の情報提供。
- 年内入試（学校推薦型選抜・総合型選抜）後、一般選抜で合格枠が残っていないような状況にならないこと。
- インフルエンザ等感染症による病欠への対応を明確に示してほしい。

☆総合型選抜について

① 出願期間・入試日・合格発表日のルール厳守。

- エントリー（出願）・内定・正式出願などの日程が早くなり、早期の調査書の提出など、高校現場の指導に影響が出ている現状がある。学校推薦型選抜（指定校制）の募集の時期とも重なり、指導が大変複雑になる場合もある。

- ② 入試制度の詳細の明示。
 - オープンキャンパスなどで入試のエントリー・出願をさせる場合（オープンキャンパスが選抜と直結している制度）は、本人や保護者が納得のいく上でのエントリー・出願になるように、制度の詳しい説明がほしい。
 - 選抜方法の多様化に伴って指導上混乱を招く事例が多く、各大学の制度のわかりやすい情報提供をお願いしたい。
- ③ エントリー時、および出願時の高等学校への通知。
 - 事前面談などは、授業日に当たらないこと。
- ④ その他
 - 総合型選抜が多様な受験方式を増やし、指導上多大な労力を要している現状がある。
 - 合格基準・評価の基準を明確にし、アドミッションポリシーに基づいた選考を行ってほしい。十分な面接等を行わないで合格しているケースが散見する。

☆学校推薦型選抜について

- ① 出願時期の順守（11月1日以降）。
- ② 配慮を要する生徒に対する入試当日の柔軟な対応。
- ③ 推薦書の簡素化。
 - 関東で進んでいる書式の統一化を関西でもお願いしたい。※P6の千葉県を参照
 - パソコンで文章の入力ができるようにしていただきたい。
 - 文章を入力するのではなく項目をチェックする形式の推薦書も検討していただきたい。
 - 一人の教員が一時期に多数の推薦書を作成する現状がある。
- ④ 具体的な選考方法（面接・小論文・口頭試問）や内容等の明記。
- ⑤ 発表の方法、発表時間や発送日時（Web、学内掲示、郵送発送）の明記。
- ⑥ 受験料の納付期間と出願期間への留意。
 - 祝日等の関係で極端に短いことがあるので留意してほしい。
- ⑦ 入試要項の早期の発表。
- ⑧ 指定校推薦に関して
 - 他の書類と混同しないような表記の工夫。
 - 依頼書の必要事項の明記。
 - ※「推薦基準・人数枠・出願期間（必着 or 消印有効）・試験日・合格発表日・手続締切日・選考方法・受験料・割引等の特典・奨学金」を募集要項などに点在させないこと。
 - 統一した依頼書の書式。※P5の依頼書の例を参照
 - 出願書類の郵送方法を個人による個別の出願を原則としてほしい。
 - 「学校一括、学部一括、個人」を明記し、一括とされる場合は返信用封筒を用意してほしい。
 - オープンキャンパスなどで指定校に関する情報を生徒に伝えることは厳禁。
 - ※指定校の情報開示前になることが多く、安易に指定校入試を勧めることになるため。

- 指定校推薦の案内をデータで受け取ることの検討。
- 面接で口頭試問を実施する場合、内容の情報提供（過去の質問でも良い）。
- 指定校推薦で不合格になった場合、時期的にも事後指導が難しいことを知ってほしい。

☆合否通知・合格数の把握について

- ① 各入試結果の連絡。
 - 合否・成績の開示が難しい場合でも、受験者の名前は記載してほしい。
 - 追加合格を出す学校も増えているため、最終的な入試結果を送ってもらいたい。
- ② 入試結果の帳票のフォームや形式の統一化。※高校側としては整理がしやすい。

☆入学前教育（実施日や実施内容など）について

- ① 高等学校の授業・活動に影響が出ないことへの配慮。
 - 授業日や行事日に重ならないようにお願いしたい。また、私立高校では土曜日も授業があるので土曜実施は避けてほしい。
 - 併願可能な公募制で合格し、一時手続きをしている生徒に対して共通テスト直前に入学前課題の提出期限が設定されているケースがあった。生徒の受験計画に支障が出ないように柔軟に対応してほしい。
 - E-learning については、生徒が課題を達成するのに十分にパソコンを使えない状況で、かつ高等学校での対応が困難な場合は、別途課題を課すなど一定の配慮をお願いしたい。
 - 生徒の身体的な条件によって課題がこなせない場合などは、柔軟な対応をお願いしたい。
 - 生徒・高校に負担がかからないような課題等の内容と日程にしてほしい。
- ② 入学前教育の事前通知と連絡。
 - 入学前教育の案内は合格書類に入っていることが多く、高校が掌握できないことがある。入学前教育の有無や内容を事前に把握するために募集要項にも明記してほしい。
 - 大学へ登校する入学前教育の場合、出欠を必ず報告してほしい。
- ③ 学習の継続性・モチベーションの維持につながるプログラムの構築。
 - 合格後も学習を継続する意識を持たせる高大連携の取り組みであってほしい。
 - 内容を学力面だけでなく、大学生活に順応できるような内容も入れてほしい。
- ④ 経済的負担の軽減。
 - 入学前教育の内容に関して、生徒の経済的負担が大きくならないでほしい。もし費用負担がある場合には、募集要項に概算でもよいので負担金額を明示してほしい。

☆資料等の送付について

- ① 学校案内・入試ガイド・願書などの送付数の削減。
 - 追加が必要な場合のために、申し込み用紙などを入れておいていただけると扱いやすい。

- ポスターはA4サイズが望ましい。ポスターやチラシについては、PDFに加工して生徒に配付・配信することも可能であるため。大きさと枚数はその高等学校の状況に応じて考えてほしい。
 - 送付するものによって、メール便を使うのか、普通郵便を使うのかを考えてほしい。（メール便は到着までに日数がかかる場合がある。）
 - 郵送物が多数であると、開封や仕分けには時間を要し、重労働になることもある。必要な時に必要なものをデジタル情報・データとして取得できる方法にしてほしい。
 - 生徒に多くの情報があることがありがたいが、進路指導室や教室への掲示や資料の設置に限界があるため、ある程度の情報についてはWebにて案内してほしい。
- ② 封筒への内容物の簡単な記載。

☆学校訪問について

- ① 学校訪問時のアポイント要望一覧の通り、必要な高校にはアポイントを入れてもらいたい。
- ② お越しいただけることに感謝している。学校の情報を直接聞けることは貴重な情報源であるので、大切にしたい。事前連絡をいただければ十分な対応が可能になり、また失礼がない対応もできるので、アポイントはいれてほしい。
- ③ 可能ならば高等学校ごとの担当者を決めてほしい。その場合、担当者が変わってもその学校の状況をしっかりと引き継いでほしい。
- ④ 訪問前に高等学校のホームページをチェックし、基本的なことはつかんでおいてほしい。
- ⑤ 同じ大学の学部ごとに来校されることがあるが、まとめていただけると助かる。様々な情報が得られるのでメリットが大きいものの、校務が多用なため個別対応にも限界がある。
- ⑥ 高等学校の卒業生の在学中の情報を教えてほしい。
- ⑦ 求人票受付の時期など、多忙な時期には対応できない場合があることを知っておいてほしい。

☆その他

- ① オープンキャンパスでは、高校の指導を受けて参加している生徒もいるので、そうした意図を汲んだお声かけや説明をお願いしたい。
- ② 土曜日に授業等を実施している高等学校もあるので、オープンキャンパスは日曜日にも参加できるようにしてほしい。
- ③ Web出願の導入は便利である反面、メールアドレスを持っていない生徒の対応、プリントアウトやその後の確認作業も学校がほとんど行っている現状を知ってほしい。
- ④ 生徒が入試情報を得るためにホームページを頼ることが多くなっている。そのため最新の入試情報などが容易に得られるような、ホームページの構成をお願いしたい。
- ⑤ 出願要件に「欠席日数」の規定がある場合、通信制高等学校への転入学をした生徒は、欠席日数がほとんどと引っかかる。そのためにも転入学後の頑張りを見てもらえるような規定がほしい。
- ⑥ 入試問題及び解答をPDFで公開してほしい。
- ⑦ 新課程入試の詳細や結果は早く知らせてもらいたい。

以上

★指定校制推薦の依頼書（依頼内容のまとめ）を反映した一覧表のイメージ

1. 学部・学科・専攻コースごとの依頼内容

学部・学科等	人数	総評基準	他の評定基準	他の基準	備考
〇〇学部 △△学科	1名	3.5	かつ、国語 3.5以上	3年生1学期までの欠席日数が 15日以内であること	——
□□学部 ▲▲学科	2名	3.3	あるいは、外 国語（英語） が3.5以上	あるいは、英語検定準2級以上 あるいは、TOEIC450点以上	総評4.5以上の 場合は、入学金 免除
◇◇学部 経済学科	うち	3.4	——	「数学Ⅱ」を履修していること	——
◇◇学部 歴史学科	1名	3.5	——	「日本史探究」あるいは「世界 史探究」を履修していること	——

2. 出願期間 2025年11月1日（土）～2025年11月7日（金） 最終日（**必着**）・消印有効

3. 選考内容 試験日 2025年11月16日（日） 午前10時集合 場所：〇〇大学 ◆◆キャンパス

面接試験	小論文試験	志願理由書	その他
あり 個人面接 10分程度	あり（当日実施） 1500字程度 『〇〇』について	あり（出願時提出） 1200字程度	——

4. 合格発表日 2025年12月4日（木） 郵送にて

5. 手続き期間 1次手続き 2025年12月4日（木）～2025年12月26日（金） 入学金のみ
2次手続き 2026年1月23日（金） 前期授業料・諸会費

年 月 日

学校推薦型選抜 推薦書

〇〇〇〇大学 学長様

学 校 名	
校 長 名	
記入者名	

貴大学学校推薦型選抜の出願資格適格者と認め、本校より下記の者を推薦いたします。

記

志 望 学 部 学 科	学部 学科
フリガナ	
氏 名	
推 薦 理 由	
特 記 事 項	

<記入上のお願い>

1. 本推薦書への記入は、原則としてホームルーム担当の先生とします。
2. 推薦理由には、学力の3要素（以下参照）を踏まえて記入ください。
①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」
3. 特記事項欄には、推薦理由以外に明記しておくべき事項があれば記入してください。（空白可）

〇 〇 〇 〇 大 学